



CITY OF KUMAMOTO

Outline of Kumamoto City



熊本市 市勢要覧 2025

発刊にあたって



熊本市は、熊本城に代表される歴史・文化、そして、清らかな地下水や「森の都」と称される豊かな緑を誇る九州中央の拠点都市です。

明治22年の誕生以来、130年を超える歴史の中で幾多の合併を経験するとともに、先人たちが築いてきた数多くの財産を受け継ぎ、74万都市が築き上げられてきました。

さて、昨年は、本市の最上位計画である「第8次総合計画」に基づくまちづくりが4月にスタートし、8月には市電、そして、11月には水道事業がそれぞれ100周年を迎えるなど、新たなステージへ歩み始めた1年となりました。

一方で、近年、激甚化・頻発化する自然災害、少子・高齢化の進展や人口減少、さらには、不安定な国際情勢など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化していることから、これらに伴う諸課題に真摯に向き合いながら、熊本への半導体関連企業の進出といった千載一遇の好機を的確に捉えて、未来への礎づくりを着実に進めていかなければなりません。

このような中、本年は、引き続き、県や近隣市町村との連携をさらに深めながら、慢性的な交通渋滞の解消に取り組むほか、半導体関連企業の熊本進出に伴う諸課題への対応や、総合的なこども施策の推進など、市民の皆様の暮らしを守り、明るい未来を築くための施策を全庁一丸となって推進してまいります。

そして、市民の皆様と徹底した対話を行いながら、様々な地域課題に向き合うことで、「上質な生活都市」の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

この「熊本市 市勢要覧2025」が皆様方に本市の取組をご理解いただく一助となれば大変幸いに存じます。

令和7年（2025年）8月 熊本市長 大西 一史



〈熊本市自治基本条例〉

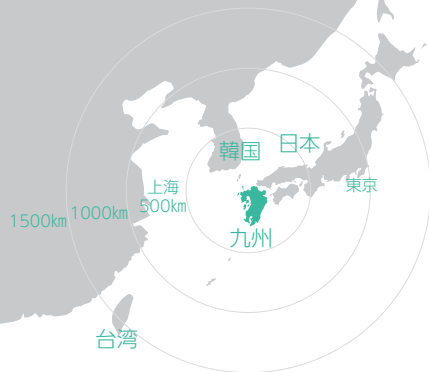
個性豊かで活力に満ちた熊本市をみんなで築いていくために、熊本市自治基本条例を平成22年（2010年）4月に施行しました。

この条例では、自治の基本理念、市民・市議会・行政の役割及び自治を推進するための基本的な事項を規定しています。熊本市は、この条例に基づいて「自分たちのまちは自分たちで創る」という考え方を基本に置いた、情報共有、参画、協働によるまちづくりを進めています。

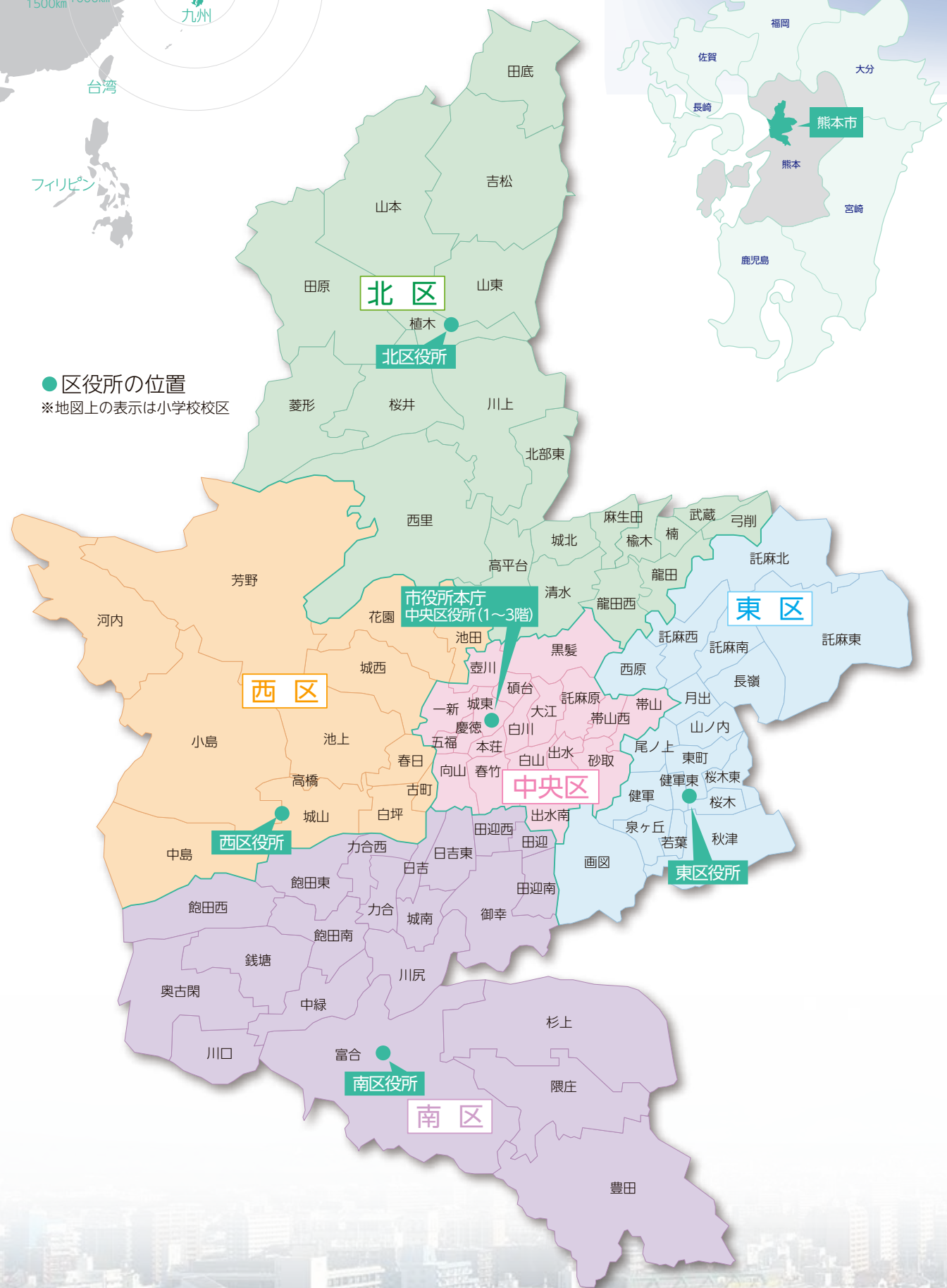
CONTENTS【目次】

発刊にあたって	西 区	10	機構図	16
市の概要	南 区	11	資料	18
第8次総合計画	北 区	12	名誉市民	41
中央区	市 政	13	市のシンボル	裏表紙
東 区	市議会	14		

熊本市の概要



● 区役所の位置
※地図上の表示は小学校校区



● 地域【位置・面積】

経度:東経130°42'29" 緯度:北緯32°48'12"
地点:中央区手取本町1番1号
総面積:390.44平方キロメートル
※世界測地系 資料:国土地理院、市総務課

本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

地勢は、金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯、南部は白川の三角州で形成された低平野からなっています。

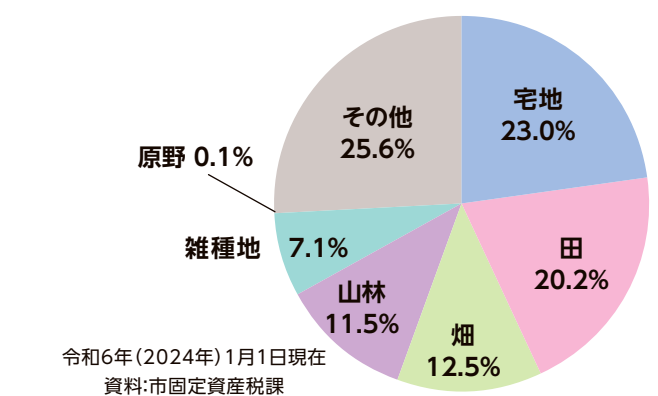
気候は、有明海との間に金峰山系が連なるため、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。

● 令和7年(2025年)推計人口に基づく行政区の人口等

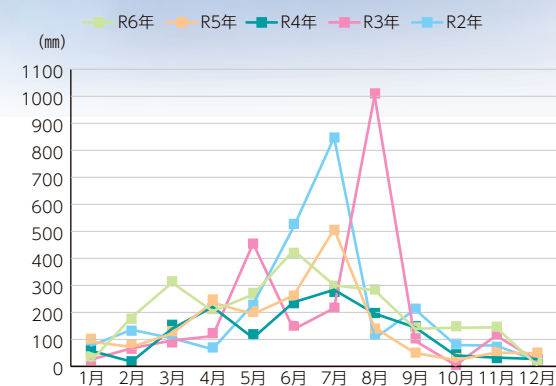
行政区	面積(km ²)	人口(人)	男(人)	女(人)	世帯数(世帯)
中央区	25.45	186,675	88,358	98,317	104,120
東 区	50.19	189,484	89,893	99,591	84,644
西 区	89.33	90,240	42,386	47,854	41,934
南 区	110.13	132,361	62,508	69,853	53,984
北 区	115.34	136,749	64,886	71,863	58,956
合 計	390.44	735,509	348,031	387,478	343,638

(R7.4.1現在推計人口) (面積:R7.4.1国土地理院公表値)
※推計人口とは、国勢調査確定値を基に毎月の転入・転出及び出生・死亡を増減したものです。

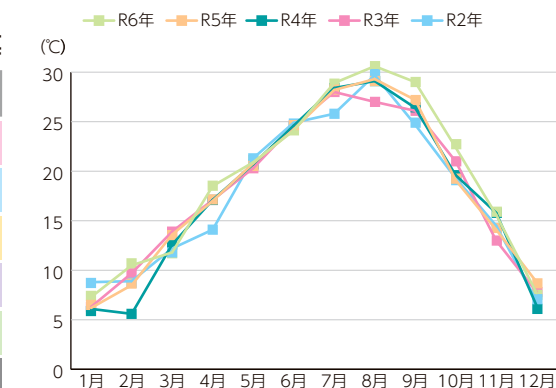
● 地目別土地面積の割合



● 過去5年間降水量比較 資料:熊本地方気象台

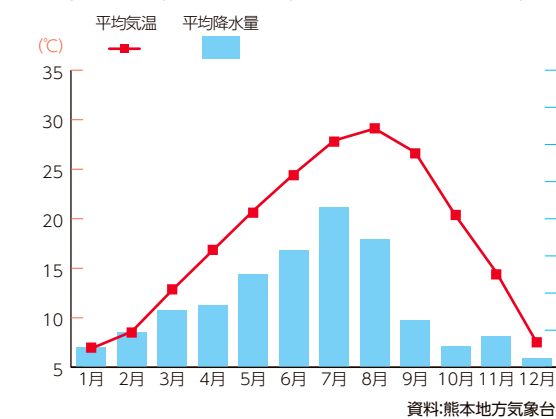


● 過去5年間気温比較 資料:熊本地方気象台



● 気温と降水量

(過去5年(R2年～R6年)の降水量と気温の平均)



第8次総合計画

人口減少への対応を本市の最重要課題として位置付け、めざすまちの姿を実現するために必要な取組を8つのビジョンで構成しました。



第8次総合計画は、令和6年度(2024年度)から令和13年度(2031年度)を計画期間とする本市の長期的なまちづくりの計画です。

この計画をまちづくりの羅針盤として、地域、そして市民の皆様と共にまちづくりに取り組んでいきます。

まちづくりの基本理念

まちづくりの原点は、「地域」、そして、そこに暮らす「市民」です。

個人の権利や自由が尊重される一方で、人と人とのつながりが希薄になりやすい時代とされていますが、本市においては、甚大な被害をもたらした平成28年(2016年)熊本地震(以下、「熊本地震」という。)の混乱の中においても、行政をけん引する形で市民が自然発生的に活動し、地域やコミュニティで連携しながら、困難を乗り越えてきました。

また、新型コロナウイルス感染症の流行は、心豊かな生活には、人と人、地域やコミュニティとのつながりが不可欠であることを再認識する契機ともなりました。

本市を取り巻く情勢は目まぐるしく移り変わり、様々な課題がありますが、私たちはこれらを克服しながら「上質な生活都市」を実現し、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

そのために、「市民」と「地域」、そして「行政」が、それぞれが果たすべき責任や役割を担いつつ、互いに支え合う成熟した地域社会を基盤としたまちづくりに取り組んでいきます。

めざすまちの姿

上質な生活都市

豊かな自然と歴史・文化に恵まれ、あたたかいふれあいに満ちた地域の中で、お互いに支え合いながら心豊かで幸せな暮らしが営まれ、災害に強くだれもが安心して暮らせるまち。そして、市民一人ひとりが、自分たちが暮らすまちに誇りを持ち、夢や希望を抱いて、いきいきと多様な生活を楽しんでいるまち。

そのような、

**市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、
「上質な生活都市」**

を、私たちは目指します。

人口減少への対応

人口減少への対応を本市における最重要課題として位置付け、多方面から様々な対策を講じていきます。

1 人口減少の抑制

- 人口の自然減の抑制を図るために、若者の結婚・出産・子育てに関する希望を叶えるための支援や環境整備などに取り組めます。
- 人口の社会増を図るために、こども・子育て支援の充実や住みやすいまちづくりなどにより、住み続けたい人を増やすとともに、雇用機会の創出や人材還流の推進などにより、移り住みたい人を増やすための施策に取り組めます。

2 人口減少への適応

- 人口減少に適応し、生活の質を維持するため、多核連携都市の推進、広域連携による都市機能の補完、健康寿命の延伸、女性や高齢者など多様な主体の社会参画の推進、あらゆる分野でのDX推進などに取り組めます。

第8次総合計画の

8つのビジョン

2

市民に愛され、
世界に選ばれる、
持続的な発展を
実現するまち



4

だれもが
自分らしくいきいきと
生活できるまち



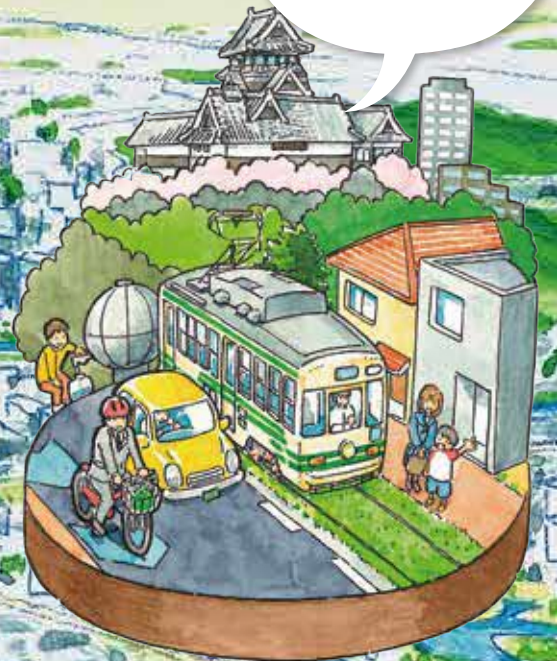
5

豊かな環境を
未来につなぐまち



7

安全で良好な
都市基盤が
整備されたまち



1

こどもが輝き、
若者が希望を
抱くまち



3

市民生活を守る
強くしなやかな
まち



6

すべての市民が
より良い暮らしを
営むまち



8

市民に信頼
される市役所



8つのビジョン実現に向けて3つの横断的な視点を持って取り組みます。

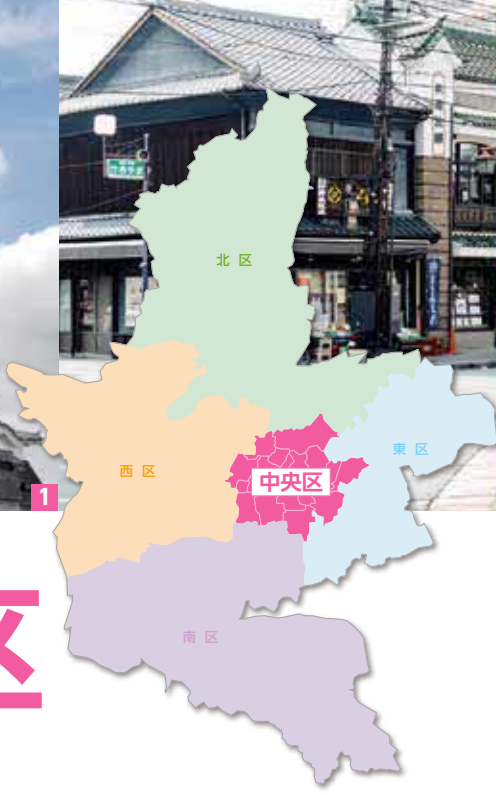
「SDGsの推進」「デジタル化、DXの推進」「市域を越えた広域的な連携の強化」



中央区

中央区役所
〒860-8618 中央区手取本町1番1号
☎096-328-2555 (代表)

(R7.4.1現在推計人口)
 (人口) 186,675人
 (世帯) 104,120世帯
 (面積) 25.45 km² (R7.4.1国土地理院公表値)



中央区は、市役所本庁舎や県庁、西日本有数の繁華街を有する熊本の中心地で、ほぼ区の全域が市街地となっています。また、交通網の拠点として、熊本桜町バスターミナルからは放射状にバス網が張り巡らされています。一方で、熊本のシンボルである熊本城の下、風情・人情ある城下町の面影を残しているほか、立田山の豊かな緑、水前寺成趣園や江津湖の湧水に恵まれた、都市と自然が調和した文化と歴史が感じられる暮らしやすいまちです。

東区

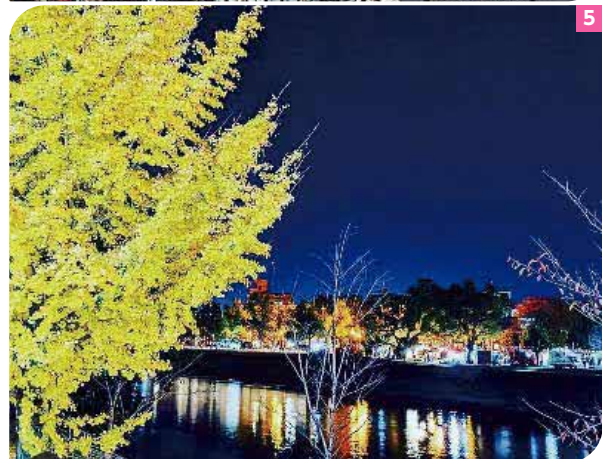
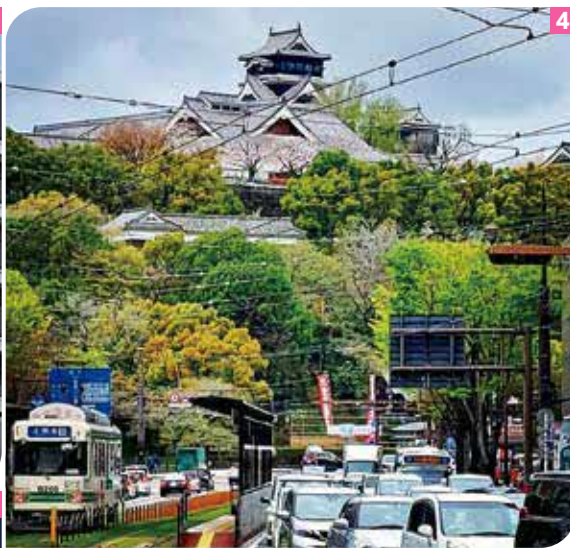
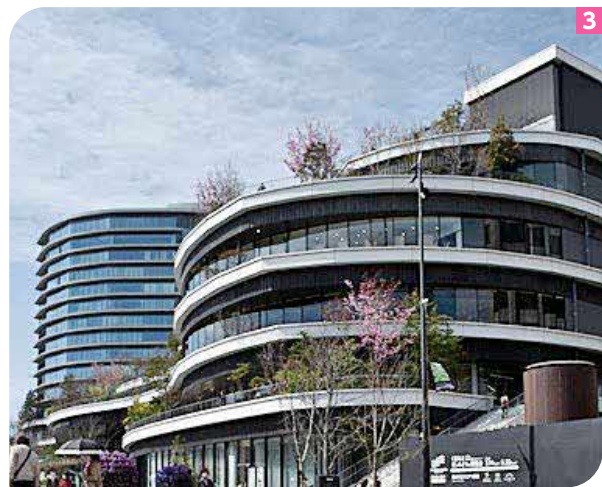
東区役所
〒862-8555 東区東本町16番30号
☎096-367-9111 (代表)

(R7.4.1現在推計人口)
 (人口) 189,484人
 (世帯) 84,644世帯
 (面積) 50.19km² (R7.4.1国土地理院公表値)



区域内には国道57号(通称東バイパス)や一般県道熊本空港線(通称国体道路)などの主要幹線道路が走り、熊本インターチェンジがあるほか、益城熊本空港インターチェンジや熊本空港が立地する益城町や菊陽町と隣接しています。

商業施設や医療機関、学校や福祉施設なども多く都会の姿を見せる一方で、北には託麻三山や運動公園、南には動植物園があり、その周囲に江津湖が広がるなど、都市の利便性と自然とが調和する住環境に優れた地域です。



- 1 熊本城
- 2 新町・古町
- 3 サクラマチクマモト
- 4 通町筋
- 5 白川夜市
- 6 ジェーンズ邸



- 1 江津湖花火大会
- 2 動植物園
- 3 江津湖
- 4 健軍神社
- 5 健軍商店街
- 6 健軍白衛隊通り



西区役所
〒861-5292 西区小島2丁目7番1号
☎096-329-1111 (代表)

(R7.4.1現在推計人口)
 (人口) 90,240人
 (世帯) 41,934世帯
 (面積) 89.33 km² (R7.4.1国土地理院公表値)



西区は、熊本市の西側に位置し、河内みかんなどの果樹栽培の盛んな金峰山、ノリやアサリ、ハマグリなどの養殖も盛んな有明海など豊かな自然に恵まれたところです。加えて、陸の玄関である熊本駅、海の玄関である熊本港も擁しており、人や物の交流拠点として重要な役割を担っています。

また、国指定史跡である「池辺寺跡」や「千金甲古墳」のほか、宮本武蔵が五輪書を執筆した壺巖洞、加藤清正の菩提寺である本妙寺など名所、旧跡も数多く存在し、「自然」「食」「賑わい」「歴史」に恵まれた地域となっています。



- 1 みかん畑と金峰山系
- 2 石畳の道(草枕ハイキングコース)
- 3 熊本駅
- 4 熊本港
- 5 釣耕園
- 6 大将陣棚田



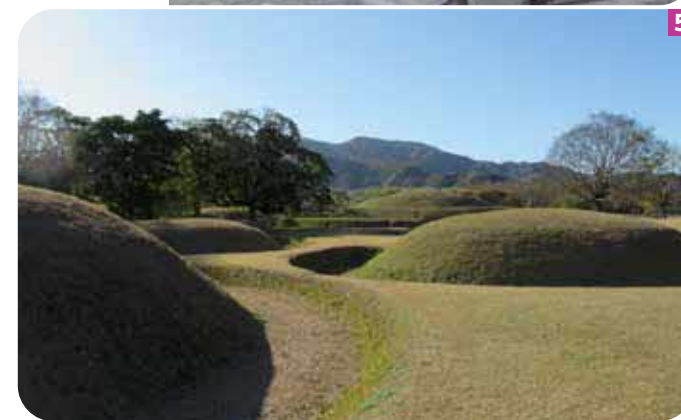
南区役所
〒861-4189 南区富合町清藤405番地3
☎096-357-4111 (代表)

(R7.4.1現在推計人口)
 (人口) 132,361人
 (世帯) 53,984世帯
 (面積) 110.13km² (R7.4.1国土地理院公表値)



南区は、加勢川、緑川など一級河川が有明海に注ぎ、雁回公園や塚原古墳公園などの拠点的な公園緑地を有する、自然豊かな地域であり、区域の半分を占める農地では、ナスやトマト、メロン、きゅうり、花きなどの栽培が盛んに行われています。

一方で、城南工業団地、県内の流通の拠点である熊本流通業務団地、新幹線熊本総合車両所などがあり、熊本の製造業、運輸業の中枢を支える地域でもあります。



- 1 上空から見た加勢川と緑川
- 2 熊本総合車両所
- 3 熊本藩川尻米蔵
- 4 中無田閘門
- 5 塚原古墳公園
- 6 アクアドーム



北区役所
〒861-0195 北区植木町岩野238番地1
☎096-272-1111 (代表)

(R7.4.1現在推計人口)
 (人口) 136,749人
 (世帯) 58,956世帯
 (面積) 115.34km² (R7.4.1国土地理院公表値)



北区は熊本市の北部に位置し、五つの区の中でもっとも面積が大きい区です。

区域内を国道3号が走り、豊かな農産物に恵まれ、田原坂、武蔵塚等の史跡、また、本市の上水道発祥の地である八景水谷水源や立田山等歴史・文化そして自然も豊かです。

また植木温泉や宮原温泉、菊南温泉、梶尾温泉など癒しを得られる場所に富み、「食」「歴史」「自然」「温泉地」に恵まれた暮らしやすい地域です。



- 1 区の花 ひまわり
- 2 植木温泉
- 3 田原坂資料館
- 4 寂心さんの樟
- 5 武蔵塚公園
- 6 八景水谷公園

市 政

歴代市長

代	氏 名	就任年月日	退任年月日
第1代	杉 村 大 八	明治 22. 5. 6	明治 26. 7. 9
2	松 崎 為 己	〃 26. 9. 15	〃 30. 8. 2
3	辛 島 格	〃 30. 9. 13	大正 2. 1. 20
4	山 田 珠 一	大正 2. 4. 2	〃 3. 10. 10
5	依 田 昌 兮	〃 4. 1. 14	〃 6. 9. 3
6	佐 柳 藤 太	〃 6. 11. 20	〃 10. 11. 19
7	高 橋 守 雄	〃 11. 1. 19	〃 14. 7. 13
8	辛 島 知 己	〃 14. 9. 14	昭和 4. 7. 4
9	山 田 珠 一	昭和 5. 2. 5	〃 9. 4. 17
10	山 隈 康	〃 9. 5. 14	〃 17. 5. 13
11	平 野 龍 起	〃 17. 6. 25	〃 20. 8. 10
12	石 坂 繁	〃 20. 10. 4	〃 21. 3. 11
13・14	福 田 虎 亀	〃 21. 6. 14	〃 23. 2. 9
15	佐 藤 真佐男	〃 23. 4. 7	〃 27. 3. 7
16	林 田 正 治	〃 27. 3. 21	〃 31. 2. 23
17・18	坂 口 主 税	〃 31. 3. 16	〃 38. 1. 4
19・20	石 坂 繁	〃 38. 2. 15	〃 45. 11. 26
21～24	星 子 敏 雄	〃 45. 12. 20	〃 61. 12. 6
25・26	田 尻 靖 幹	〃 61. 12. 7	平成 6. 12. 6
27・28	三 角 保 之	平成 6. 12. 7	〃 14. 12. 2
29～31	幸 山 政 史	〃 14. 12. 3	〃 26. 12. 2
32～34	大 西 一 史	〃 26. 12. 3	在 任 中



市議会



市議会は、市民から選ばれた議員48名(中央区12名、東区12名、西区6名、南区9名、北区9名)で構成されています。会派としては、自由民主党熊本市議団(14名)、熊本自由民主党市議団(8名)、公明党熊本市議団(7名)、市民連合(7名)、日本共産党熊本市議団(2名)、新風熊本市議団(2名)、創生熊本市議団(2名)の7会派が結成されており、そのほか無所属議員(5名)となっています。※令和6年5月27日付で1名欠員

会議は年4回開かれる定例会と必要がある場合に開かれる臨時会があります。内部の審査機関としては、常任委員会と議会運営委員会及び特別委員会があります。常任委員会は予算・決算議案及び関連議案を審査する予算決算委員会のほか、総務・教育市民・厚生・環境水道・経済・都市整備の計7委員会があり、議案などの審査及び所管部門の事務の調査を行います。議会運営委員会は議会の運営に関する調査を行います。特別委員会は必要に応じて議会の議決により設置され、現在、庁舎整備に関する特別委員会、大都市行財政制度に関する特別委員会、地域公共交通に関する特別委員会の3委員会があります。

歴代市議会議長

代	氏 名	就任年月日	退任年月日
1	有 馬 源 内	明治 22. 4. 26	明治 24. 1. 21
2	興 津 景 章	〃 24. 1. 22	〃 28. 5. 13
3	河 原 惟 親	〃 28. 5. 14	〃 31. 5. 22
4	吉 永 為 己	〃 31. 5. 23	〃 36. 2. 5
5	山 田 珠 一	〃 36. 2. 6	〃 37. 4. 30
6	吉 永 為 己	〃 37. 5. 27	大正 2. 4. 30
7	林 千 八	大正 2. 5. 10	〃 6. 4. 30
8	山 隈 康	〃 6. 5. 15	〃 10. 9. 30
9	迫 源 次 郎	〃 10.10. 14	〃 14. 9. 30
10	山 隈 康	〃 14.10. 12	昭和 9. 5. 7
11	平 野 龍 起	昭和 9. 5. 8	〃 17. 6. 14
12	佐 藤 真 佐 男	〃 17. 7. 23	〃 22. 4. 29
13	佐 藤 真 佐 男	〃 22. 6. 9	〃 23. 4. 7
14	大 塚 勇 次 郎	〃 23. 6. 5	〃 26. 4. 29
15	大 塚 勇 次 郎	〃 26. 5. 15	〃 30. 4. 30
16	兼 坂 安 次	〃 30. 5. 21	〃 34. 4. 8
17	打 出 信 行	〃 34. 6. 12	〃 36. 3. 24
18	寸 坂 幸 夫	〃 36. 3. 24	〃 38. 4. 30
19	阿 部 次 郎	〃 38. 5. 18	〃 40. 3. 18
20	井 上 常 八	〃 40. 3. 18	〃 40.12. 7
21	石 井 辰 雄	〃 41. 7. 4	〃 42. 4. 30
22	阿 部 次 郎	〃 42. 5. 20	〃 43. 7. 3
23	坂 梨 日 露	〃 43. 7. 13	〃 45.12. 4
24	黒 田 弥 一 郎	〃 45.12. 4	〃 46. 4. 30
25	落 水 清 弘	〃 46. 5. 20	〃 48. 6. 6
26	古 川 国 雄	〃 48. 6. 6	〃 50. 4. 30
27	紫 垣 正 良	〃 50. 5. 16	〃 52. 6. 4
28	上 田 堅 太	〃 52. 6. 4	〃 54. 4. 30
29	島 永 慶 孝	〃 54. 5. 14	〃 56.12. 8
30	藤 山 増 美	〃 56.12. 8	〃 58. 4. 30
31	宮 原 光 男	〃 58. 5. 18	〃 60. 9. 6
32	大 石 文 夫	〃 60. 9. 6	〃 61.12. 15
33	内 田 幸 吉	〃 61.12. 15	〃 62. 4. 3
34	西 村 建 治	〃 62. 5. 22	〃 63.12. 16
35	村 上 春 生	〃 63.12. 16	平成 2. 3. 26
36	矢 野 昭 三	平成 2. 3. 26	〃 3. 4. 30
37	嶋 田 幾 雄	〃 3. 5. 17	〃 5.12. 3
38	中 村 徳 生	〃 5.12. 3	〃 7. 4. 30
39	荒 木 哲 美	〃 7. 5. 19	〃 9. 3. 27
40	主 海 偉 佐 雄	〃 9. 3. 27	〃 11. 4. 30
41	江 藤 正 行	〃 11. 5. 21	〃 13. 6. 8
42	白 石 正	〃 13. 6. 8	〃 14. 6. 18

歴代市議会副議長

代	氏 名	就任年月日	退任年月日
1	下 田 一 直	明治 22. 4. 26	明治 24. 1. 21
2	下 田 耕 造	〃 24. 1. 22	〃 31. 5. 22
3	片 山 甚 十 郎	〃 31. 5. 23	〃 32. 2. 7
4	林 定 男	〃 32. 2. 8	〃 36. 2. 5
5	出 田 彦 太 郎	〃 36. 2. 6	〃 36. 2. 11
6	園 部 交 雅	〃 36. 2. 12	〃 36. 5. 11
7	板 垣 正 軌	〃 36. 5. 12	〃 37. 2. 12
8	有 働 格 四 郎	〃 37. 2. 13	〃 40.11. 4
9	板 垣 正 軌	〃 40.11. 14	〃 42. 1. 27
10	河 田 巖	〃 42. 1. 28	大正 2. 4. 30
11	井 場 熊 喜 齋	大正 2. 5. 10	〃 6. 4. 30
12	峽 謙 乱	〃 6. 5. 15	〃 7. 3. 10
13	藤 野 規	〃 7. 3. 11	〃 10. 9. 30
14	水 上 誠	〃 10.10. 14	〃 14. 9. 30
15	河 田 巖	〃 14.10. 12	昭和 4. 9. 30
16	平 野 龍 起	昭和 4.10. 12	〃 9. 5. 7
17	橋 本 寿 七	〃 9. 5. 8	〃 17. 5. 20
18	西 郷 一 恵	〃 17. 6. 11	〃 22. 4. 29
19	大 塚 勇 次 郎	〃 22. 6. 9	〃 23. 6. 5
20	加 川 恒 次	〃 23. 6. 5	〃 26. 4. 29
21	北 野 利 民	〃 26. 5. 15	〃 28. 9. 5
22	上 野 勉	〃 28. 9. 25	〃 30. 4. 30
23	森 光 吉	〃 30. 5. 21	〃 32.12. 28
24	吉 村 貞 次	〃 34. 6. 12	〃 35. 3. 21
25	坂 梨 日 露	〃 35. 3. 21	〃 37. 7. 9
26	吉 村 貞 次	〃 37. 7. 9	〃 38. 4. 30
27	石 井 辰 雄	〃 38. 5. 18	〃 41. 7. 4
28	吉 村 貞 次	〃 41. 7. 4	〃 42. 4. 30
29	佐 藤 寿 子	〃 42. 5. 20	〃 44. 3. 24
30	古 川 国 雄	〃 44. 3. 25	〃 44. 6. 28
31	岩 尾 恵	〃 44. 9. 13	〃 46. 4. 30
32	阪 本 富	〃 46. 5. 20	〃 48. 6. 6
33	荒 木 昇	〃 48. 6. 6	〃 50. 4. 30
34	藤 山 増 美	〃 50. 5. 16	〃 52. 6. 4
35	矢 野 昭 三	〃 52. 6. 4	〃 54. 4. 30
36	上 妻 重 蔵	〃 54. 5. 14	〃 56.12. 8
37	田 尻 武 男	〃 56.12. 8	〃 58. 4. 30
38	白 石 正	〃 58. 5. 18	〃 60. 9. 6
39	北 口 政 義	〃 60. 9. 6	〃 61.12. 15
40	吉 村 潔	〃 61.12. 15	〃 62. 4. 30
41	竹 本 勇	〃 62. 5. 22	〃 63.12. 16
42	村 上 裕 人	〃 63.12. 16	平成 2. 3. 26

代	氏 名	就任年月日	退任年月日
43	宮 原 政 一	〃 14. 6. 18	〃 15. 4. 30
44	落 水 清 弘	〃 15. 5. 23	〃 16. 9. 7
45	古 川 泰 三	〃 16. 9. 7	〃 17.12. 20
46	税 所 史 熙	〃 17.12. 20	〃 19. 4. 30
47	牛 嶋 弘	〃 19. 5. 24	〃 20.12. 22
48	竹 原 孝 昭	〃 20.12. 22	〃 22. 3. 2
49	坂 田 誠 二	〃 22. 3. 2	〃 23. 4. 30
50	津 田 征 士 郎	〃 23. 5. 23	〃 25. 3. 26
51	齊 藤 聡	〃 25. 3. 26	〃 26. 3. 24
52	三 島 良 之	〃 26. 3. 24	〃 27. 4. 30
53	満 永 寿 博	〃 27. 5. 13	〃 28. 3. 24
54	澤 田 昌 作	〃 28. 3. 24	〃 30. 3. 26
55	くつき 信 哉	〃 30. 3. 26	〃 31. 4. 30
56	倉 重 徹	令和 1. 5. 15	令和 2. 6. 9
57	紫 垣 正 仁	〃 2. 6. 9	〃 3. 6. 7
58	原 口 亮 志	〃 3. 6. 7	〃 4. 6. 10
59	原 亨	〃 4. 6. 10	〃 5. 4. 30
60	田 中 敦 朗	〃 5. 5. 16	〃 6. 3. 22
61	寺 本 義 勝	〃 6. 3. 22	〃 7. 3. 24
62	大 石 浩 文	〃 7. 3. 24	在 任 中

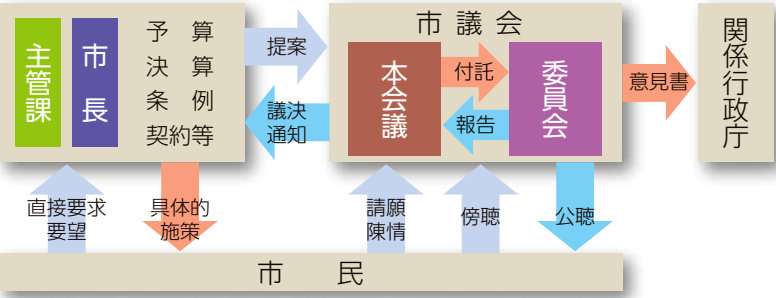
代	氏 名	就任年月日	退任年月日
43	佐 藤 公 平	平成 2. 3. 26	〃 3. 4. 30
44	西 田 統 治	〃 3. 5. 17	〃 5.12. 3
45	伊 形 寛 治	〃 5.12. 3	〃 7. 4. 30
46	宮 原 正 一	〃 7. 5. 19	〃 9. 3. 27
47	中 沢 誠	〃 9. 3. 27	〃 11. 4. 30
48	鈴 木 昌 彦	〃 11. 5. 21	〃 13. 6. 8
49	岡 田 健 士	〃 13. 6. 8	〃 14. 6. 18
50	奥 田 光 弘	〃 14. 6. 18	〃 15. 4. 30
51	竹 原 孝 昭	〃 15. 5. 23	〃 16. 9. 7
52	家 入 安 弘	〃 16. 9. 7	〃 17.12. 20
53	田 尻 清 輝	〃 17.12. 20	〃 19. 4. 30
54	磯 道 文 徳	〃 19. 5. 24	〃 21. 3. 25
55	田 中 誠 一	〃 21. 3. 25	〃 23. 4. 30
56	田 尻 将 博	〃 23. 5. 23	〃 25. 3. 26
57	鈴 木 弘	〃 25. 3. 26	〃 27. 4. 30
58	藤 岡 照 代	〃 27. 5. 13	〃 29. 3. 24
59	藤 山 英 美	〃 29. 3. 24	〃 30. 3. 26
60	田 辺 正 信	〃 30. 3. 26	〃 31. 4. 30
61	上 田 芳 裕	令和 1. 5. 15	令和 3. 6. 7
62	園 川 良 二	〃 3. 6. 7	〃 5. 4. 30
63	大 島 澄 雄	〃 5. 5. 16	〃 7. 3. 24
64	井 本 正 広	〃 7. 3. 24	在 任 中

市議会議員(令和7年3月24日現在)

氏 名	会 派	氏 名	会 派
大 石 浩 文	自 民 党	吉 村 健 治	市民連合
井 本 正 広	公 明 党	山 内 勝 志	市民連合
村 上 廣	自 民 党	伊 藤 和 仁	公 明 党
瀬 尾 誠 一	無所属議員	高 瀬 千 鶴 子	公 明 党
菊 地 渚 沙	無所属議員	小 佐 井 賀 瑞 宜	自 民 党
山 中 惣 一 郎	無所属議員	寺 本 義 勝	自 民 党
井 坂 隆 寛	無所属議員	大 島 澄 雄	熊本自民
木 庭 功 二	公 明 党	高 本 一 臣	創生熊本
村 上 誠 也	自 民 党	西 岡 誠 也	市民連合
古 川 智 子	自 民 党	田 上 辰 也	市民連合
荒 川 慎 太 郎	自 民 党	三 森 至 加	公 明 党
松 本 幸 隆	熊本自民	浜 田 大 介	公 明 党
中 川 栄 一 郎	熊本自民	田 中 敦 朗	自 民 党
松 川 善 範	創生熊本	田 中 誠 一	自 民 党
筑 紫 る み 子	無所属議員	坂 田 誠 二	自 民 党
井 芹 栄 次	共 産 党	落 水 清 弘	自 民 党
島 津 哲 也	市民連合	澤 田 昌 作	熊本自民
吉 田 健 一	公 明 党	満 永 寿 博	熊本自民
齊 藤 博	自 民 党	紫 垣 正 仁	新風熊本
田 島 幸 治	自 民 党	藤 山 英 美	新風熊本
日 隈 忍	自 民 党	上 野 美 恵 子	共 産 党
山 本 浩 之	熊本自民	上 田 芳 裕	市民連合
北 川 哉	熊本自民	村 上 博	市民連合
平 江 透	熊本自民		



市議会のしくみ



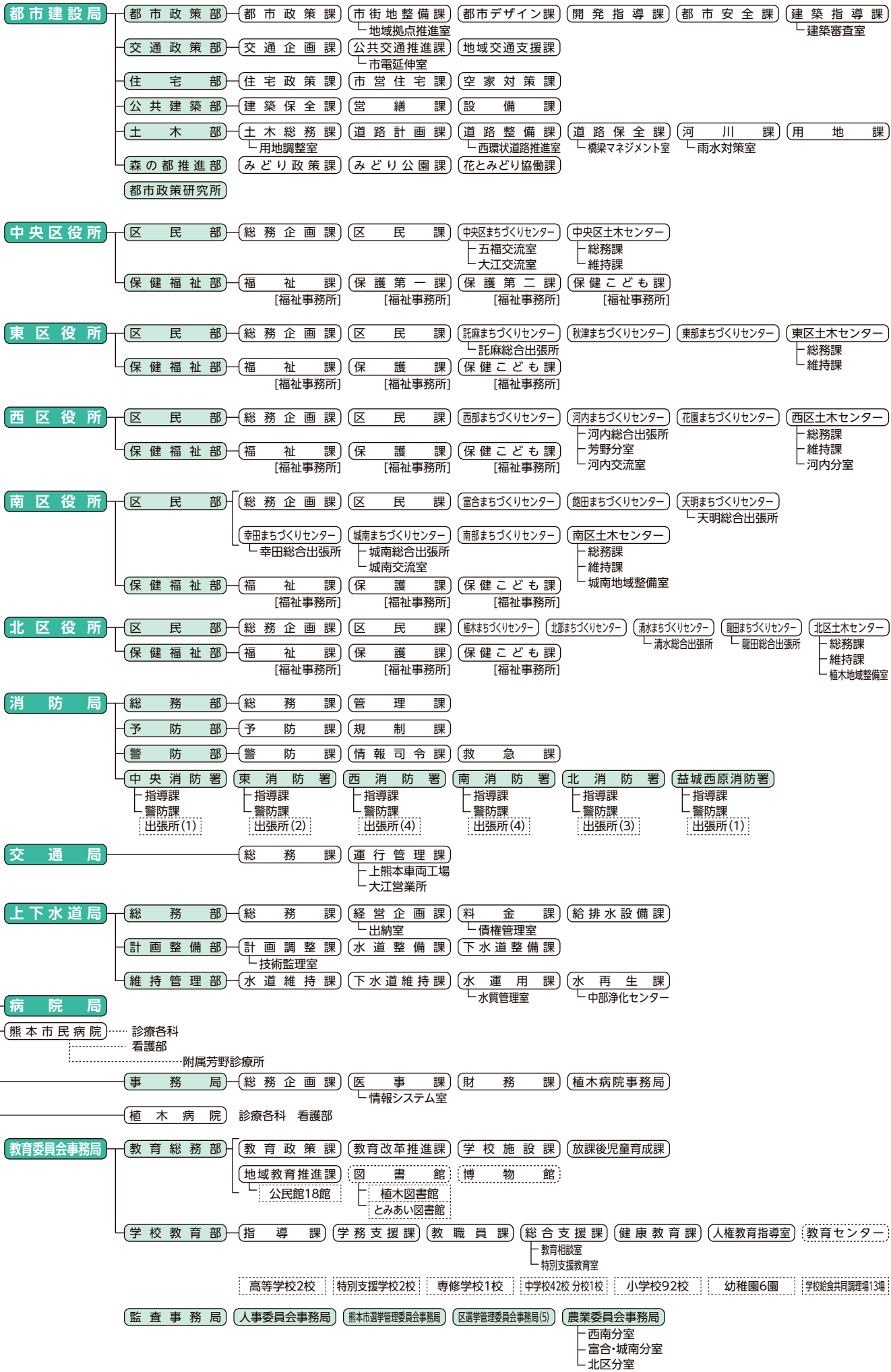
常任・特別委員会(令和7年3月24日現在)

	名 称	定 数	所管事項
常任委員会	予算決算委員会	48名	予算及びこれに関連する事項 決算及びこれに関連する事項
	総務委員会	8名	政策局、総務局、財政局、都市政策研究所、会計総室、消防局、選挙管理委員会、監査委員、人事委員会、議会の所管に属する事項、他の常任委員会の所管に属しない事項
	教育市民委員会	8名	文化市民局、教育委員会の所管に属する事項
	厚生委員会	8名	健康福祉局、こども局、病院局の所管に属する事項
	環境水道委員会	8名	環境局、上下水道局の所管に属する事項
	経済委員会	8名	経済観光局、農水局、農業委員会の所管に属する事項
	都市整備委員会	8名	都市建設局、交通局の所管に属する事項
議会運営委員会		13名	議会運営に関する調査
特別委員会	庁舎整備に関する特別委員会	12名	本庁舎に求められる機能と在り方及びこれに係る諸問題に関する調査
	大都市行財政制度に関する特別委員会	12名	大都市における行財政制度の在り方に関する調査
	地域公共交通に関する特別委員会	12名	持続可能な地域交通の実現に向けた諸問題に関する調査

熊本市機構図

令和7年(2025年)4月1日現在

凡例 局相当組織 部相当組織



熊本市資料

1人口

2財政

3産業

4保健福祉

5生活・環境

6安心・安全

7教育・文化・観光

8市民のくらし

9日本一住みやすいまちを目指して
(政令指定都市比較)

10日本一住みやすいまちを目指して
(九州山口各県庁所在地比較)

11主要観光地・施設等

12熊本市のあゆみ

18

21

22

23

24

26

27

29

30

32

34

36

※統計資料は四捨五入等の関係により、
内訳と計が一致しない場合があります。

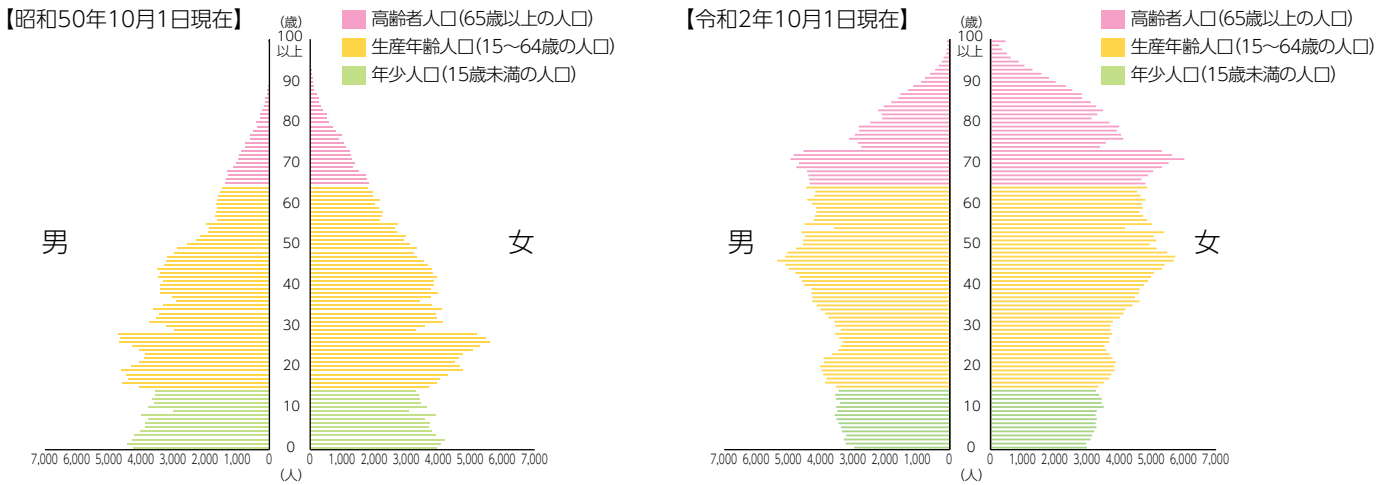
1人口

●国勢調査人口・世帯数の推移

年次		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
人口	総数	555,719	579,306	650,341	662,012	669,603	734,474	740,822	738,865
	男	265,037	275,424	310,118	314,455	316,048	344,291	348,470	349,115
	女	290,682	303,882	340,223	347,557	353,555	390,183	392,352	389,750
	年少人口(0～14歳)(%)	21.5	19.4	17.2	15.8	14.9	14.5	14.1	13.8
	生産年齢人口(15～64歳)(%)	68.7	69.2	68.9	67.9	66.5	64.5	61.7	59.7
世帯	高齢者人口(65歳以上)(%)	9.9	11.4	13.8	16.3	18.5	21.0	24.2	26.6
	世帯	194,486	211,207	246,700	260,672	270,530	302,413	315,456	326,920
	1世帯当たり人員	2.9	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.3	2.3

※平成20年10月6日に富合町と合併。平成22年3月23日に城南町及び植木町と合併。
※人口構成比については年齢不詳を含まない。

●人口ピラミッド



●産業別就業者及び就業割合(民営)

令和3年経済センサス-活動調査

行政区	総数 (産業大分類)	第1次産業		第2次産業		第3次産業		分類不能の産業	
		就業人口	就業割合	就業人口	就業割合	就業人口	就業割合	就業人口	就業割合
中央区	123,458	109	0.09%	6,961	5.64%	96,015	77.77%	20,373	16.50%
東区	71,787	220	0.31%	10,563	14.71%	55,800	77.73%	5,204	7.25%
西区	31,429	297	0.94%	3,292	10.47%	26,035	82.84%	1,805	5.74%
南区	54,008	375	0.69%	10,877	20.14%	40,388	74.78%	2,368	4.38%
北区	45,253	505	1.12%	11,048	24.41%	29,350	64.86%	4,350	9.61%
全市合計	325,935	1,506	0.46%	42,741	13.11%	247,588	75.96%	34,100	10.46%

●労働力状態

令和2年国勢調査

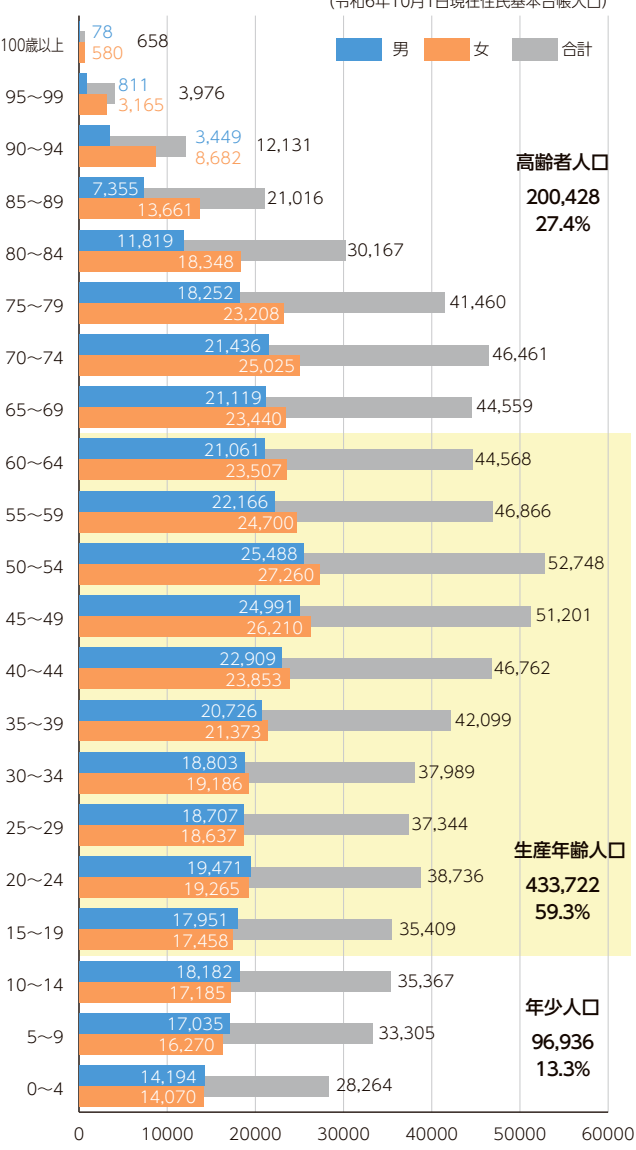
行 政 区	総数 (労働力状態)	労働力 人口	就業者					完全 失業者	非労働力人口				不詳
			(就業者) 主に仕事	(就業者) 家事的 ほか仕事	(就業者) 通学の かたわら仕事	(就業者) 休業者	家事		通学	その他			
中 央 区	157,264	88,689	84,921	70,249	8,210	3,900	2,562	3,768	50,681	17,256	11,484	21,941	17,894
東 区	157,804	92,279	88,828	74,996	9,729	1,644	2,459	3,451	50,403	18,380	8,996	23,027	15,122
西 区	78,330	43,926	42,132	35,320	4,482	975	1,355	1,794	26,829	8,320	4,648	13,861	7,575
南 区	108,226	63,638	61,422	52,125	6,672	822	1,803	2,216	34,707	11,272	5,464	17,971	9,881
北 区	118,629	68,027	65,429	55,589	6,981	995	1,864	2,598	40,357	13,833	6,066	20,458	10,245
全市合計	620,253	356,559	342,732	288,279	36,074	8,336	10,043	13,827	202,977	69,061	36,658	97,258	60,717

●夜間人口、流入・流出人口および昼間人口の推移

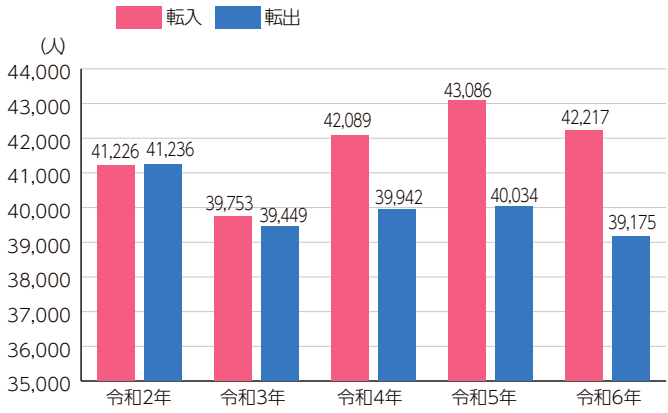
年次	夜間人口(国勢調査人口)			流入人口		流出人口		昼間人口			夜間人口対 昼間人口比 D/A×100
	実数A	増減数	増減率	実数B	増減率	実数C	増減率	実数D=A+B-C	増減数	増減率	
平成12年	661,615	11,977	1.8%	76,018	2.1%	35,977	15.3%	701,656	8,768	1.3%	106.1%
17年	668,513	6,898	1.0%	73,928	△2.7%	44,352	23.3%	698,089	△3,567	△0.5%	104.4%
22年	734,474	65,961	9.9%	70,620	△4.5%	48,001	8.2%	757,093	59,004	8.5%	103.1%
27年	740,822	6,348	0.9%	71,762	1.6%	55,732	16.1%	756,852	△241	△0.03%	102.2%
令和2年	738,865	△1,957	△0.3%	69,047	△3.8%	57,098	2.5%	750,814	△6,038	△0.8%	101.6%

※平成17年までは、年齢不詳は含まず、平成22年から含む。

●年齢5歳階級別人口

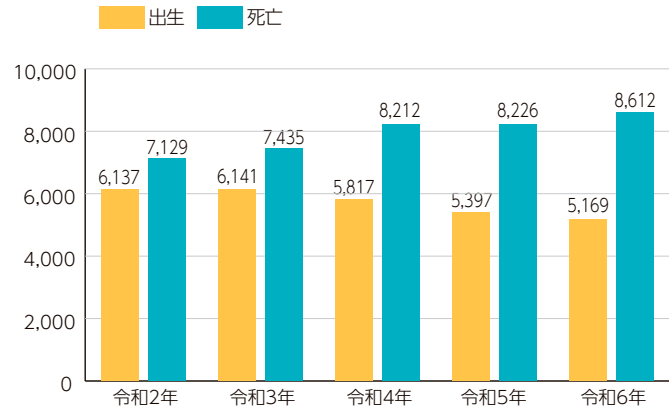


●人口動態の推移



年次	世帯数	人口			1世帯当たり人員	備考
		合計	男	女		
明治22年	11,797	42,725	3.6	市制施行 4月1日現在
大正9年	13,787	70,388	36,661	33,727	5.1	第1回国勢調査
昭和元年	27,157	150,075	75,680	74,395	5.5	
5年	32,418	164,460	81,957	82,503	5.1	
10年	38,336	214,270	105,480	108,790	5.6	12月31日現在の 現住戸数・現住人口
15年	39,813	243,574	116,838	126,736	6.1	12月31日現在の 現住戸数・現住人口
20年	37,981	180,643	84,935	95,708	4.8	11月1日現在
25年	59,853	267,506	128,067	139,439	4.5	
30年	72,008	332,493	159,500	172,993	4.6	
35年	90,949	373,922	178,014	195,908	4.1	
40年	107,634	407,052	192,538	214,514	3.8	
45年	128,559	440,020	206,854	233,166	3.4	
50年	153,540	488,166	231,188	256,978	3.2	
55年	180,239	525,662	251,011	274,651	2.9	
60年	194,486	555,719	265,037	290,682	2.9	
平成2年	211,207	579,306	275,424	303,882	2.7	
7年	246,700	650,341	310,118	340,223	2.6	
12年	260,672	662,012	314,455	347,557	2.5	
17年	270,530	669,603	316,048	353,555	2.5	
22年	302,413	734,474	344,291	390,183	2.4	
27年	315,456	740,822	348,470	392,352	2.3	
令和2年	326,920	738,865	349,115	389,750	2.3	
3年	330,000	738,185	348,660	389,525	2.2	10月1日現在の 推計人口値
4年	335,386	736,245	347,892	388,353	2.2	10月1日現在の 推計人口値
5年	338,474	738,020	348,947	389,073	2.2	10月1日現在の 推計人口値
6年	342,575	737,409	348,903	388,506	2.2	10月1日現在の 推計人口値

※明治22年は現住戸籍及び現住人口、それ以降は備考欄記載分を除き国勢調査確定値



2 財政

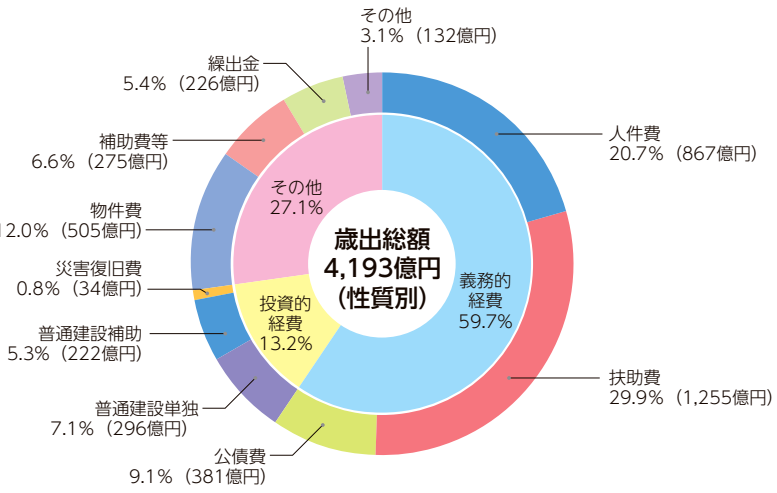
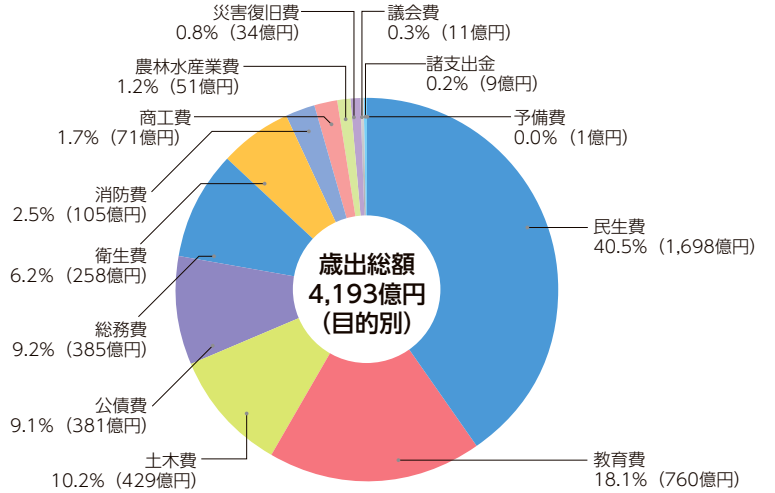
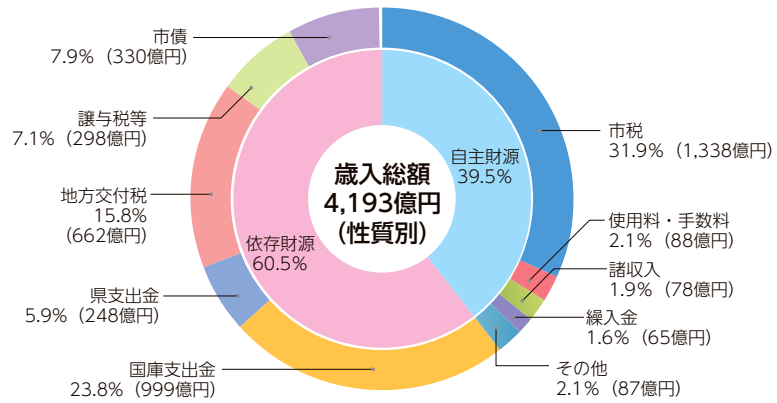
●当初予算の比較

単位:億円

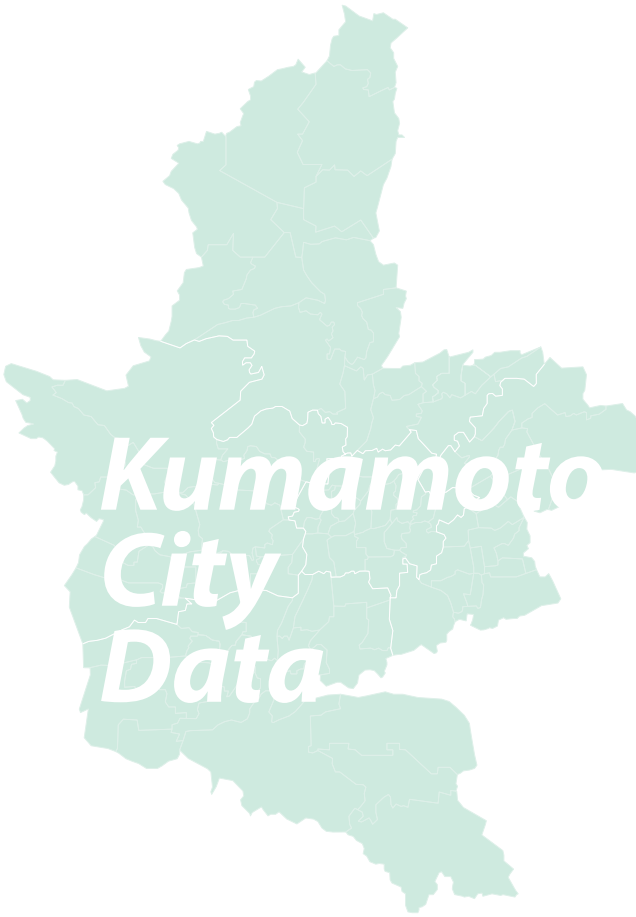
区分	令和7年度	令和6年度	比較	伸び率
一般会計	4,193	4,014	179	4.5%
特別会計	2,468	2,419	49	2.0%
企業会計	903	851	52	6.1%
総計	7,564	7,284	280	3.8%

資料 市財政課

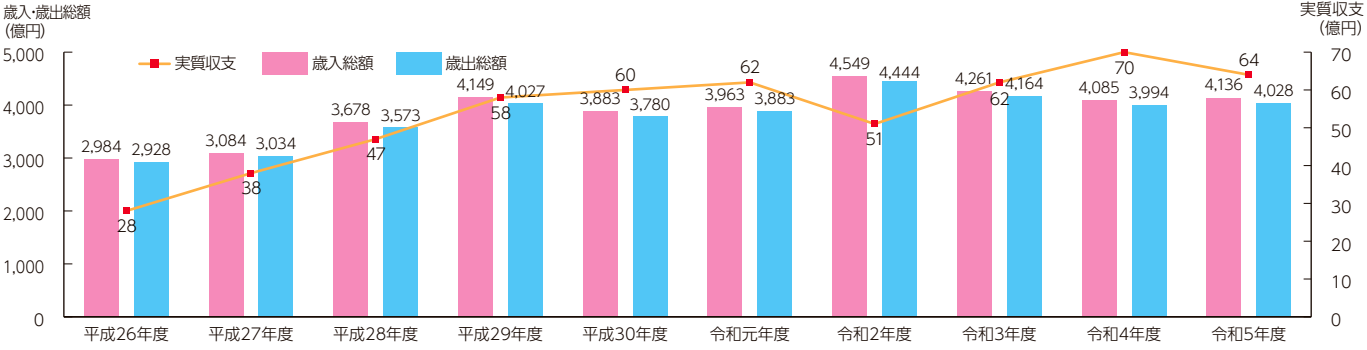
●令和7年度一般会計当初予算【歳入・歳出】



資料 市財政課

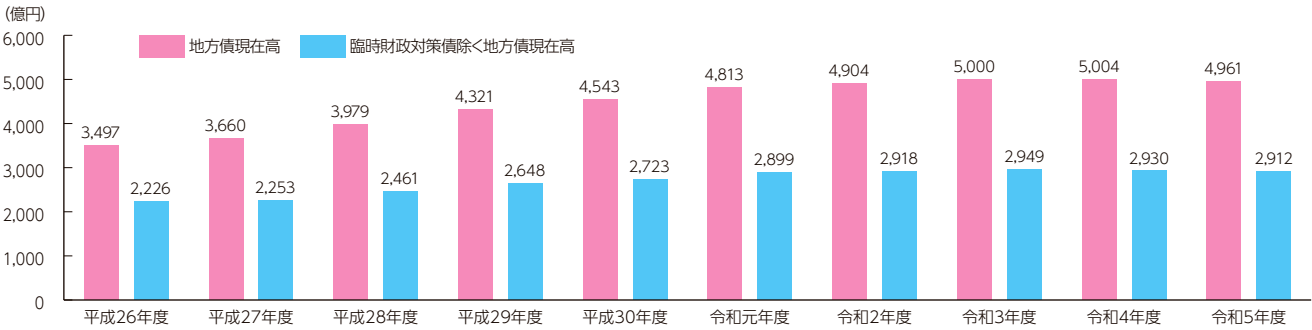


●一般会計歳入・歳出決算額の推移



資料 市財政課

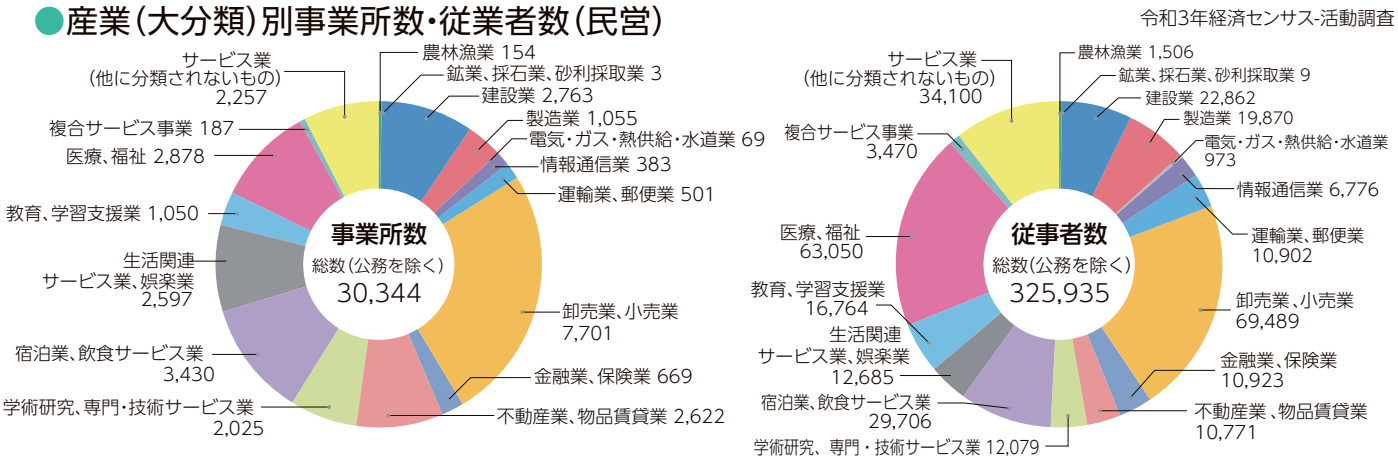
●普通会計市債現在高の推移



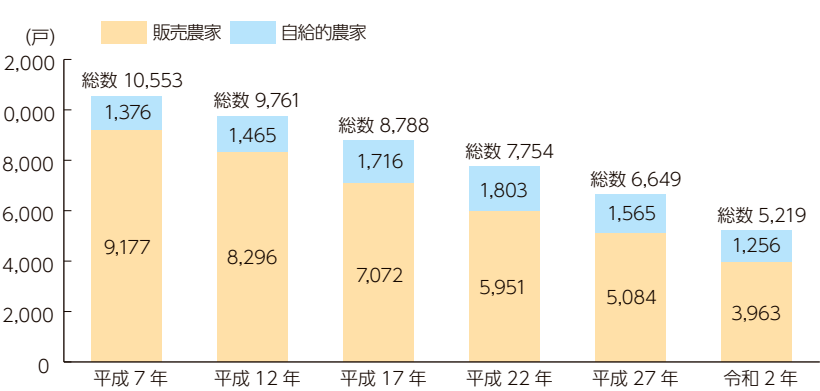
資料 市財政課

3 産業

●産業(大分類)別事業所数・従業者数(民営)

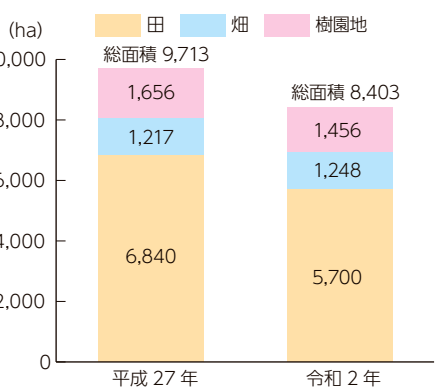


●農家戸数



※平成20年10月に富合町、平成22年3月に城南町、植木町との合併をそれぞれ行っている。

●経営耕地面積



4 保健福祉

●医療施設

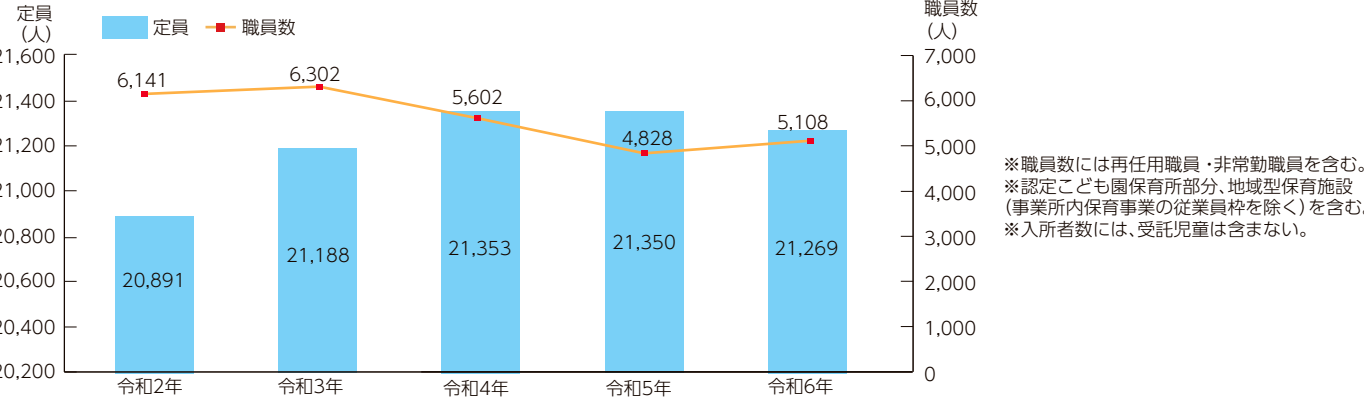
年次	病院										一般診療所						歯科診療所		
	施設数				病床数						施設数				病床数		施設数		
	総数	精神病院	一般病院	療養病床を有する病院(再掲)	総数	精神	感染症	結核	一般	療養病床	総数	有床	無床	療養病床を有する病院(再掲)	総数	療養病床(再掲)	総数	有床	無床
令和3年	94	16	78	37	14,916	3,251	8	25	8,578	3,054	648	111	537	8	1,649	81	405	1	404
令和4年	91	16	75	36	14,791	3,250	8	25	8,691	2,817	654	105	549	7	1,540	68	406	1	405
令和5年	91	16	75	36	14,791	3,250	8	25	8,691	2,817	654	99	555	6	1,420	56	403	1	402

厚生労働省「医療施設調査」

●保育所の状況

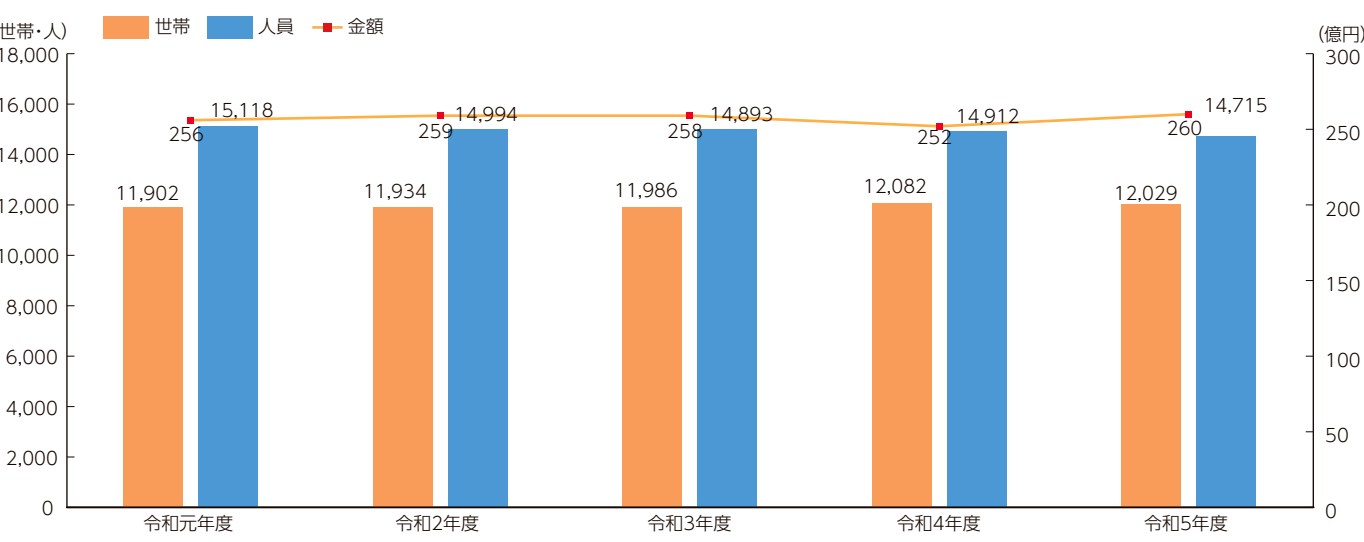
年次	保育所数	職員数	定員	年齢別入所者数						
				総数	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
令和2年	265	6,141	20,891	21,556	4,080	4,131	4,033	4,155	3,728	1,429
令和3年	266	6,302	21,188	21,348	4,150	4,062	3,984	4,112	3,648	1,392
令和4年	267	5,602	21,353	21,055	4,123	4,039	3,957	3,918	3,595	1,423
令和5年	267	4,828	21,350	20,841	4,054	4,026	3,840	3,936	3,702	1,283
令和6年	267	5,108	21,269	20,823	4,089	3,926	3,869	4,129	3,567	1,243
	市立	19	553	1,805	323	282	285	248	195	80
	私立	248	4,555	19,464	19,410	3,766	3,644	3,584	3,881	1,163

●(再掲)保育所における定員と職員数の推移



資料 市保育幼稚園課

●生活保護状況



世帯及び人員は年度平均、金額は年度計を示す。

資料 市保護管理支援課

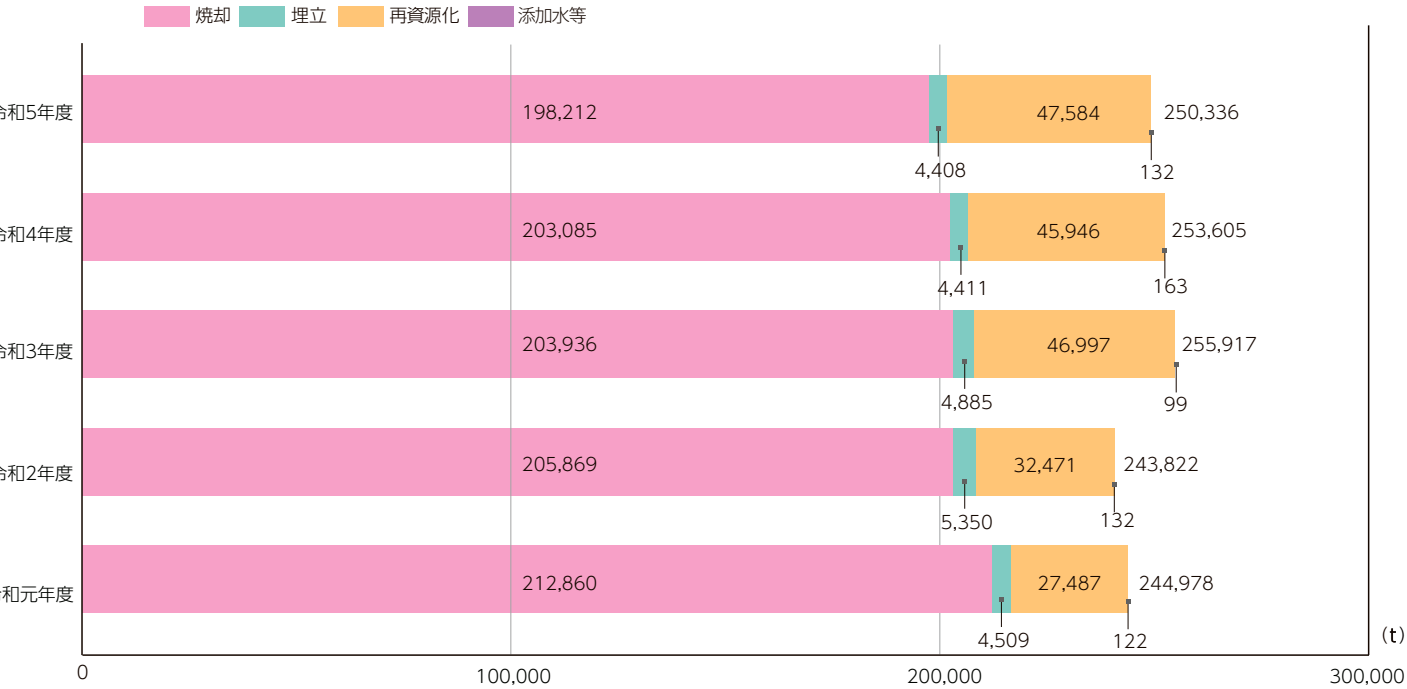
5生活・環境

●熊本市消費者物価指数

年次	総 合	食 料	住 居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保健医療	交通・通信	教 育	教養娯楽	諸雑費	エネルギー	教育関係費	教養娯楽 関係費	情報通信 関係費
令和2年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
令和3年	99.5	99.5	102.3	100.7	100.1	98.4	100.3	94.2	99.1	101.6	101.7	104.9	99.8	101.4	78.9
令和4年	101.7	104.2	103.7	110.2	104.0	100.0	100.2	92.1	99.9	102.7	103.3	117.2	100.7	102.7	66.9
令和5年	105.1	112.7	106.3	101.3	111.4	103.7	101.8	94.0	100.9	106.4	104.7	109.4	101.4	106.5	68.8
令和6年	108.2	118.5	107.1	107.0	115.1	106.3	102.9	96.0	101.8	110.8	105.5	116.1	102.6	110.8	68.8

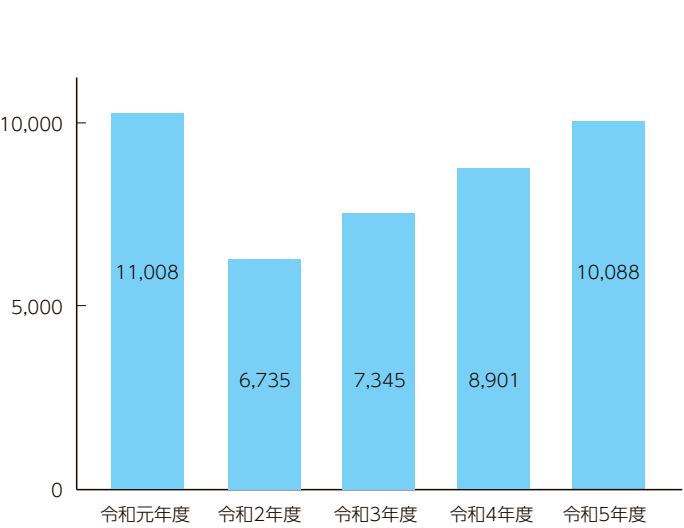
令和2年(2020年)=100.0
資料 総務省統計局「消費者物価指数年報」

●ごみ処理量の推移



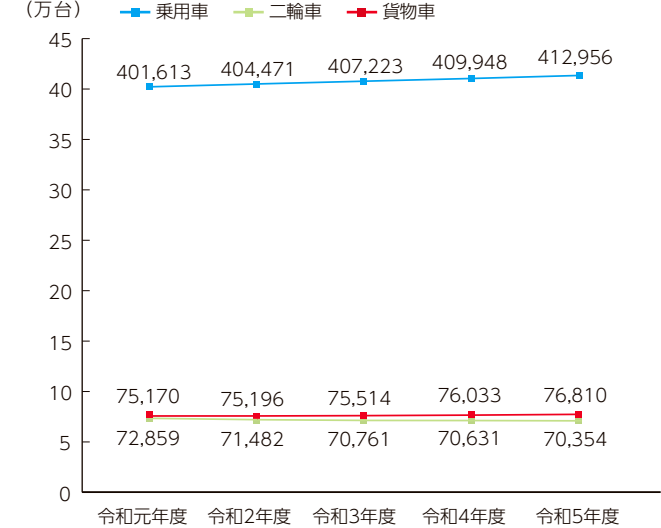
※埋立処理量には焼却灰量は含まない。
資料 市廃棄物計画課

●熊本市電の乗車人数の推移



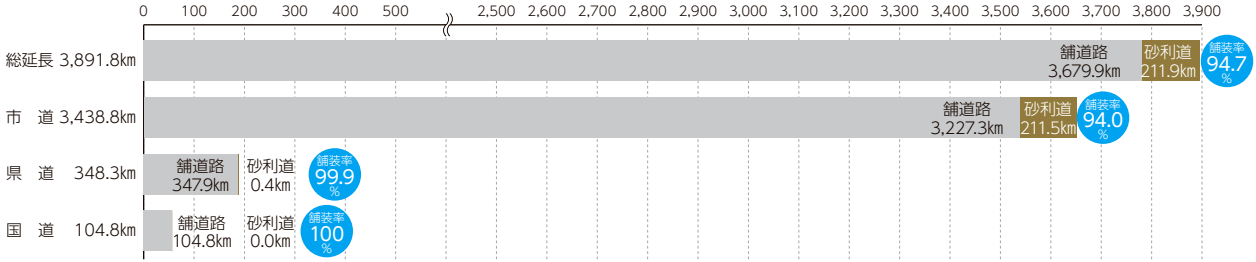
資料 市交通局 単位:千人

●車種別自動車登録台数(各年度末現在)



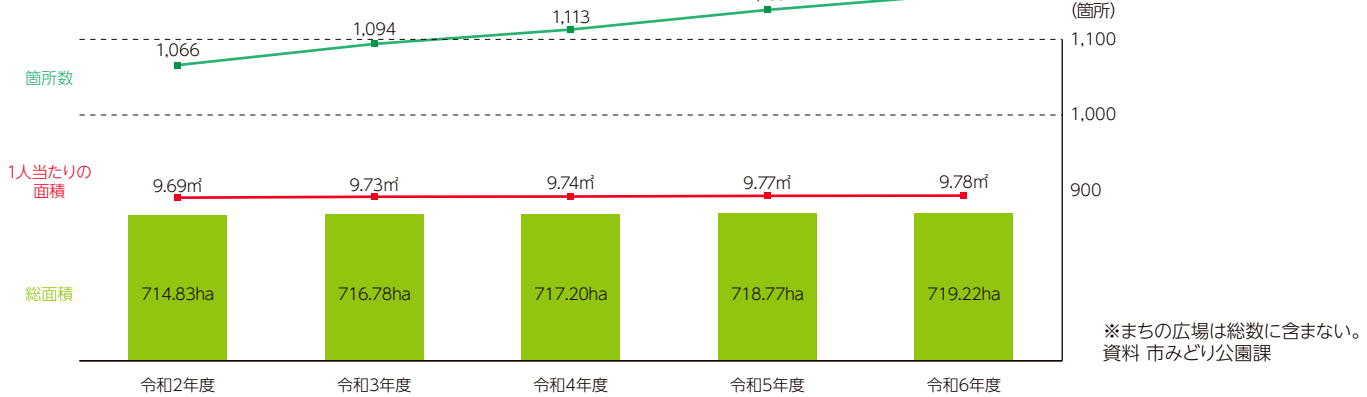
資料 九州運輸局熊本運輸支局・市市民税課

●道路の状況(令和6年3月31日現在)



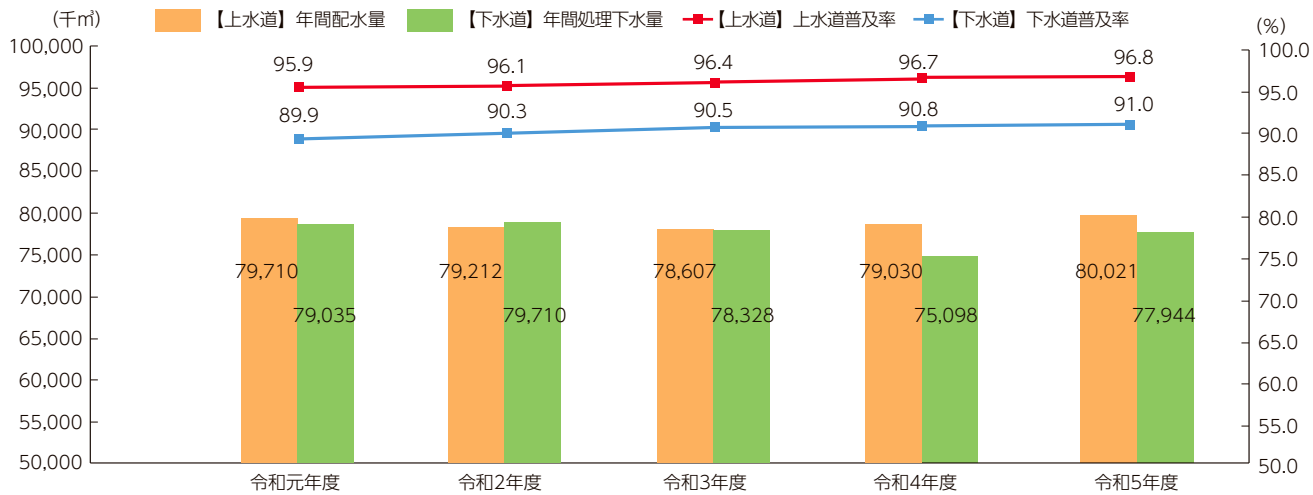
※国道の数値は国土交通省が管理する区間を含む。
資料 市土木総務課

●公園数と面積(令和7年4月1日現在)



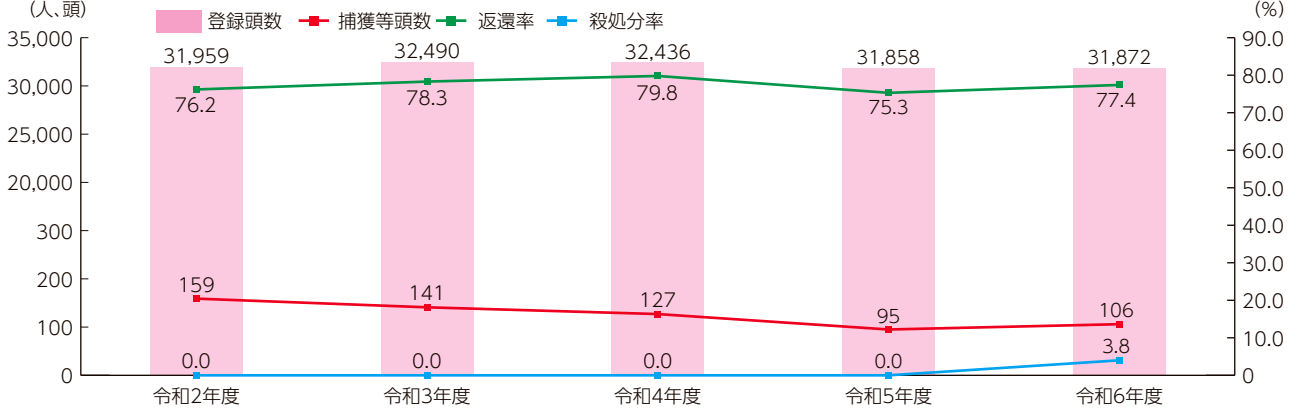
※まちの広場は総数に含まない。
資料 市みどり公園課

●上水道事業の概要



資料 市上下水道局

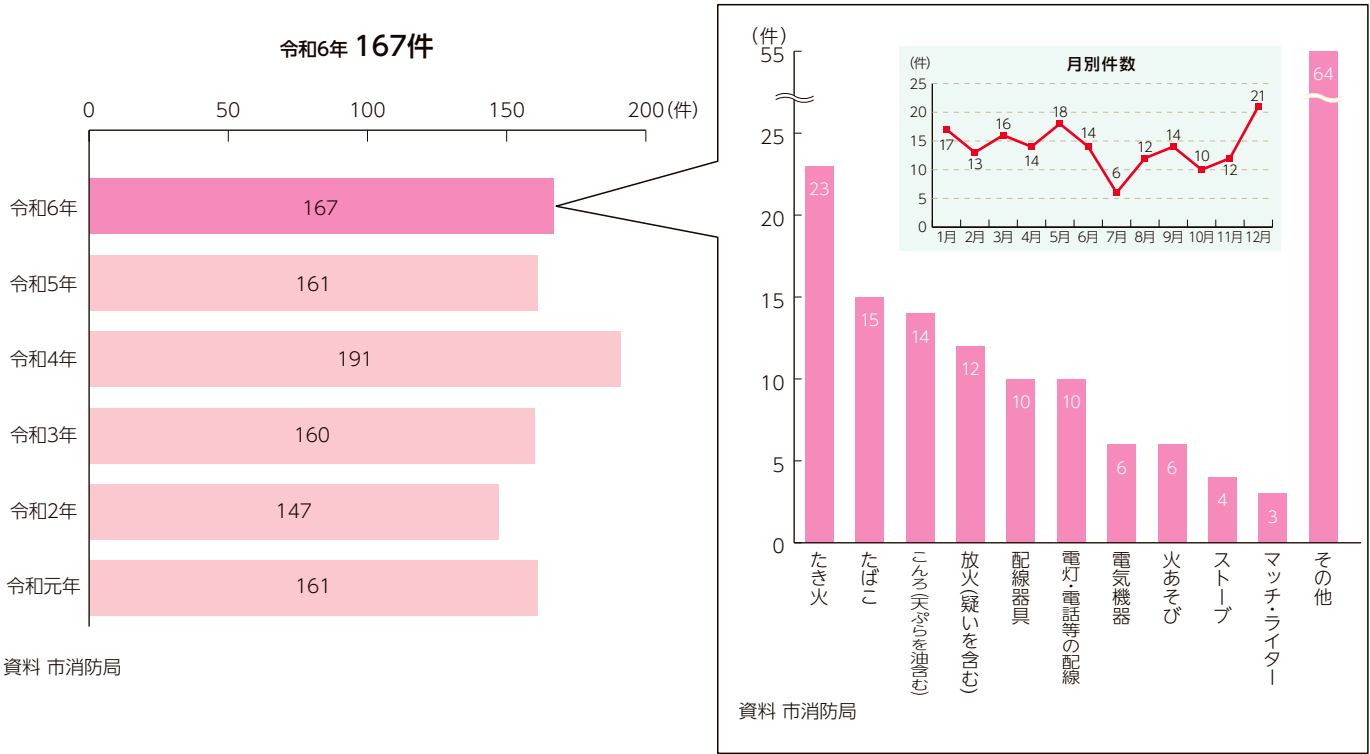
●犬の登録・収容状況等の推移



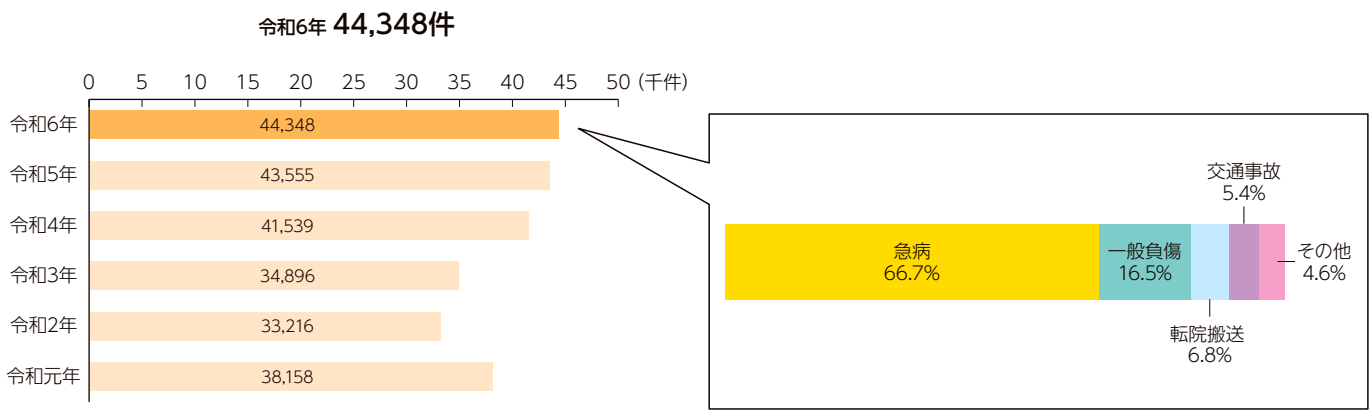
資料 市動物愛護センター

6 安心・安全

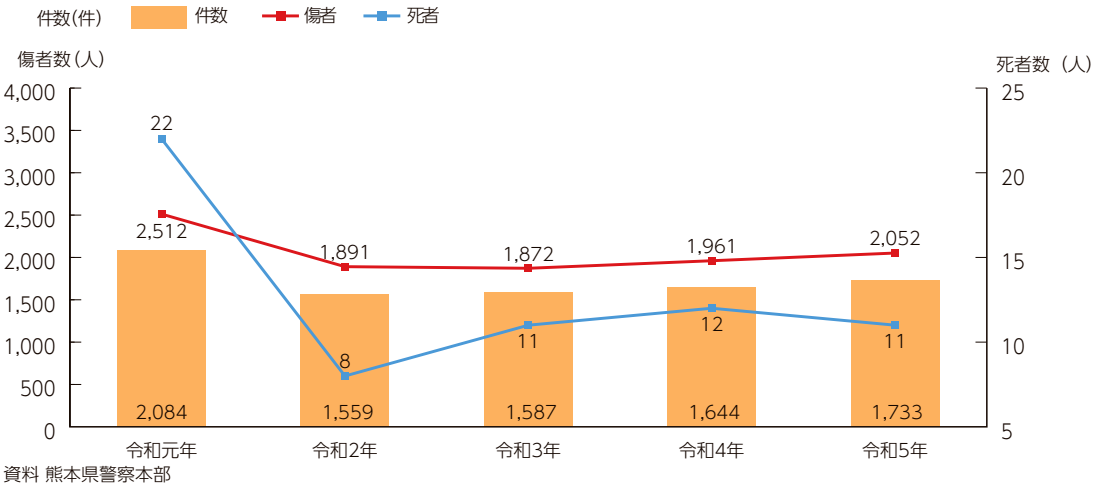
●火災発生件数



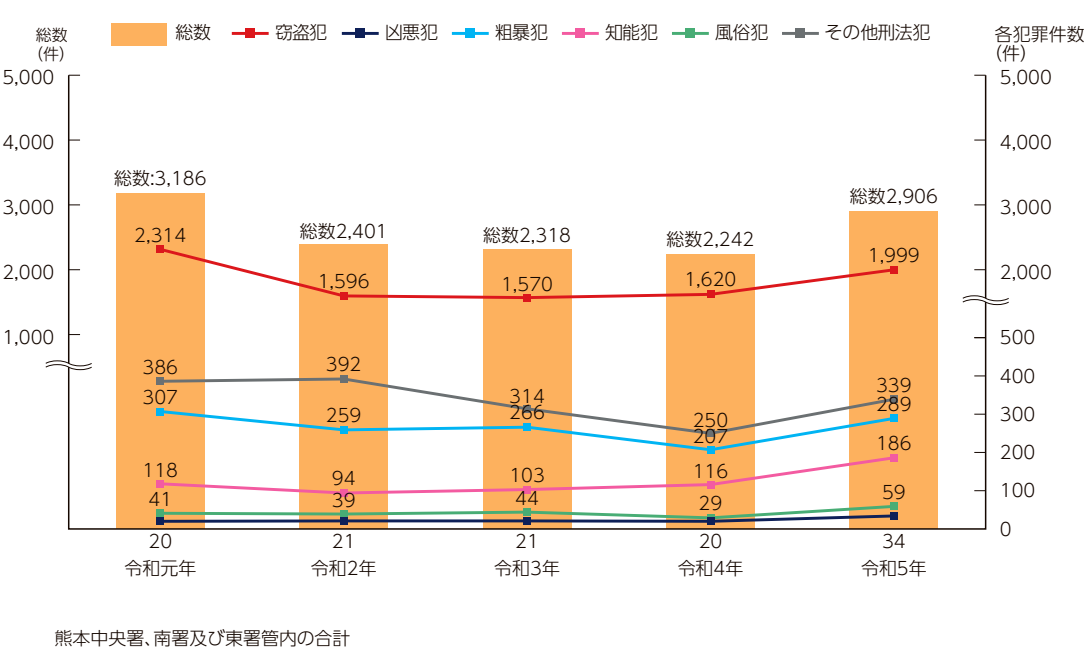
●救急車出動件数



●交通事故の状況



●刑法犯罪認知件数



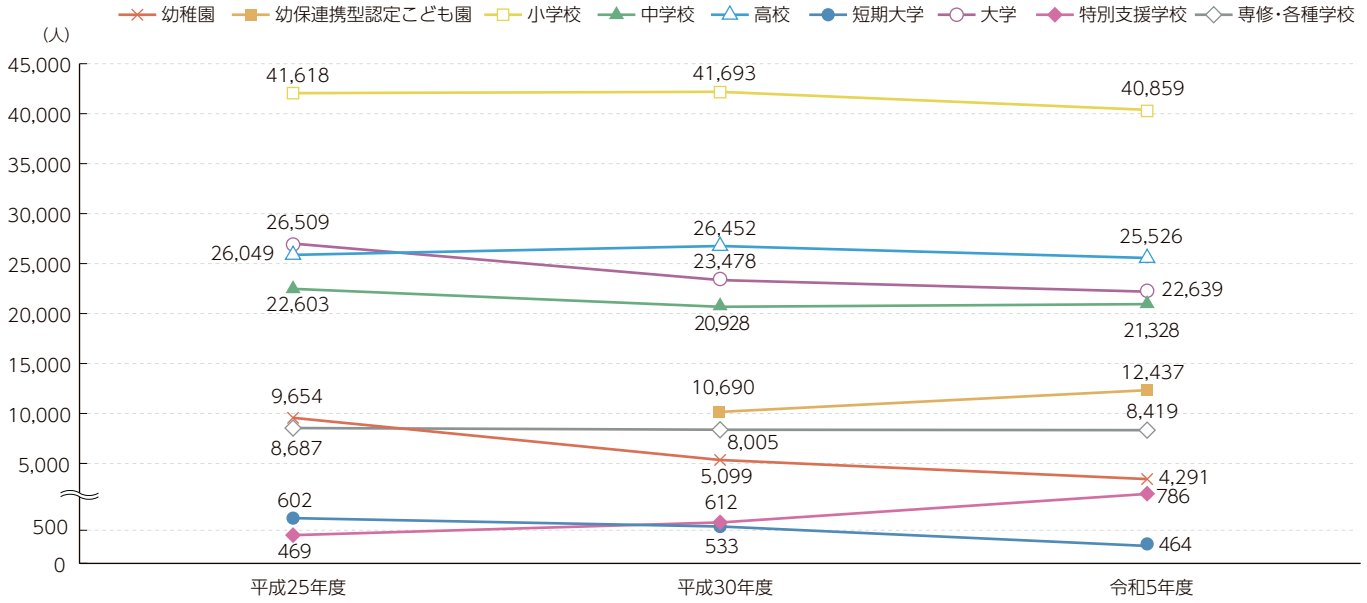
7 教育・文化・観光

●学校(園)数及の推移

年次	幼稚園	幼保連携型認定こども園	小学校	中学校	高校	短期大学	大学	特別支援学校	専修・各種学校
平成25年	58	—	95	53	27	1	8	4	40
平成30年	37	65	93	53	27	1	8	6	41
令和5年	37	87	93	52	27	1	8	8	39

資料 学校基本調査
※高校は通信制を含まない。

●児童生徒(園児)数の推移



資料 学校基本調査

●市立図書館蔵書冊数（令和6年3月31日現在）

単位:冊									
年次	総数	総記	哲学	歴史(地理)	社会科学	自然科学	技術(家政学)	産業	芸術
令和5年度	1,670,156	39,567	64,650	122,508	203,537	129,735	134,599	56,787	128,007
		語学	文学	小説	絵本	紙芝居	コミック	その他	視聴覚
		28,362	232,186	293,905	192,717	5,224	5,203	20,627	12,542

※総数と各分野総数が一致しないのは、紙芝居、コミック、その他、視聴覚が含まれていないため。

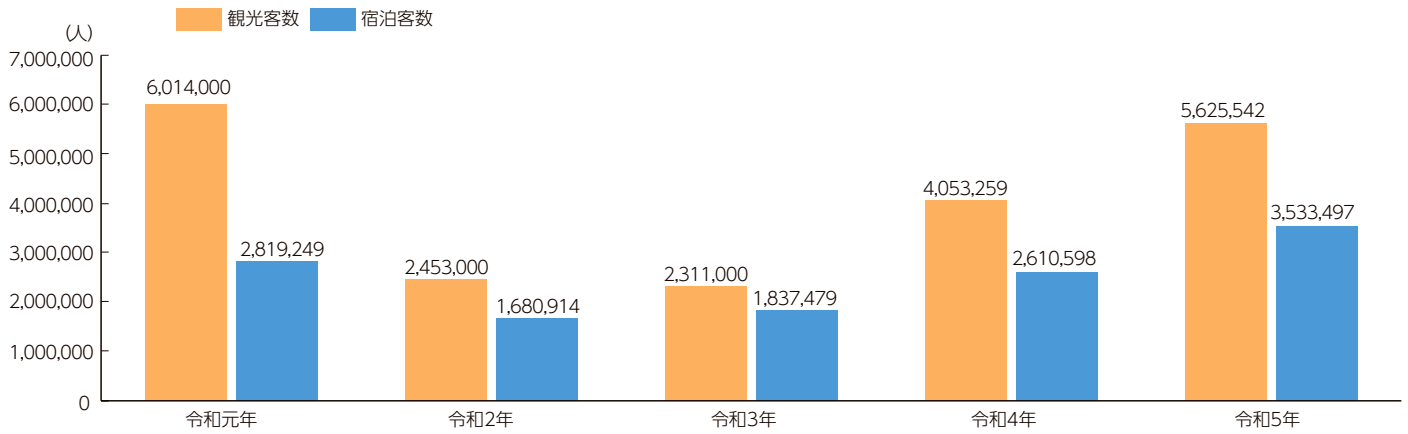
資料 市立図書館

●国指定重要文化財（令和6年4月1日現在）

名称	種別	指定年月日	所在地
六殿神社楼門	建造物	明治40年5月27日	南区富合町木原
熊本城	建造物	昭和8年1月23日	中央区本丸、二の丸
細川家舟屋形	建造物	昭和29年9月17日	中央区古京町(熊本博物館)
旧第五高等学校 本館並びに化学実験場及び表門	建造物	昭和44年8月19日	中央区黒髪 2 丁目
熊本大学工学部(旧熊本高等工業学校)旧機械実験工場	建造物	平成6年12月27日	中央区黒髪 2 丁目
吉田松花堂	建造物	令和6年1月19日	中央区新町 4 丁目
木造僧形八幡神坐像並びに木造女神坐像	美術工芸品(彫刻)	明治39年4月14日	中央区井川淵町(藤崎八幡宮)
木造東陵永興禅師倚像	美術工芸品(彫刻)	大正4年8月10日	古京町(熊本博物館)
木造十一面観音立像附像内納入品	美術工芸品(彫刻)	平成6年6月28日	中央区二の丸(県立美術館)
短刀 銘光世	美術工芸品(工芸品)	大正5年5月24日	西区花園 4 丁目(本妙寺)
巴螺細紋	美術工芸品(工芸品)	昭和55年6月6日	中央区二の丸(県立美術館)
梵鐘	美術工芸品(工芸品)	昭和56年6月9日	南区野田 1 丁目(大慈寺)
蒔絵調度類	美術工芸品(工芸品)	平成26年8月21日	西区花園 4 丁目(本妙寺)
台付舟形土器	美術工芸品(考古資料)	昭和42年6月15日	南区城南町塚原(歴史民俗資料館)
肥後阿蘇氏浜御所跡出土品	美術工芸品(考古資料)	昭和61年6月6日	中央区二の丸(県立美術館)
紙本墨書寒巖義尹文書	美術工芸品(古文書)	昭和27年3月29日	中央区二の丸(県立美術館)
紙本墨書日本紀宴和歌(上・下)	美術工芸品(書跡)	昭和34年6月27日	西区花園 4 丁目(本妙寺)
阿蘇家文書(三百四通)三十四卷附阿蘇家文書写三十六冊	美術工芸品(古文書)	昭和62年6月6日	中央区黒髪 2 丁目(熊本大学)
紙本墨書後光厳院宸翰御消息(何条事候哉云々)	美術工芸品(古文書)	昭和14年5月27日	京都府(相国寺)
安南国大都統官阮漢書簡加藤清正宛 2 幅	美術工芸品(歴史資料)	平成30年10月31日	西区花園 4 丁目(本妙寺)

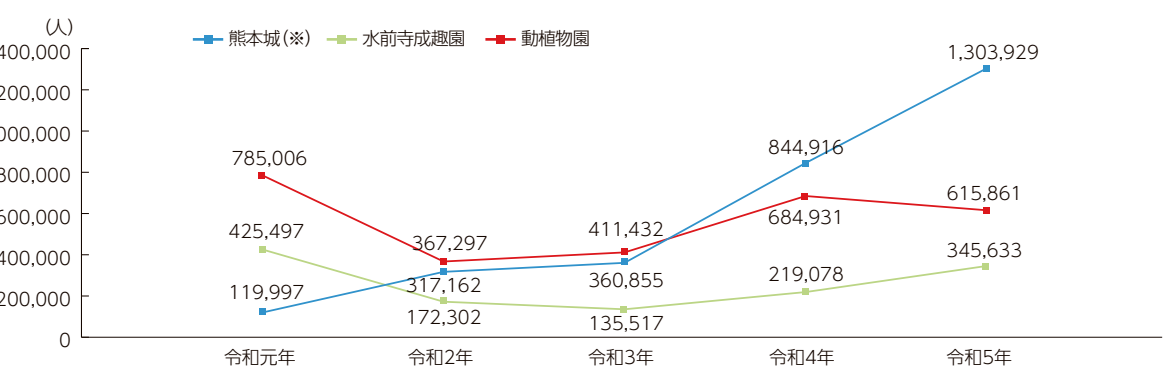
資料 市文化財課

●観光客数(推計)



資料 市観光政策課

●観光施設の入園者数



※熊本城は特別公開エリアの入園者数

資料 市観光政策課

8 市民の暮らし

世帯人口

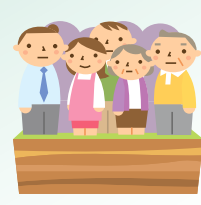
1世帯あたり **2.2** 人



令和7年4月1日

人口密度

1km²あたり **1,890** 人



令和7年4月1日

出生

1日に **14.1** 人



令和6年

死亡

1日に **23.5** 人



令和6年

転入

1日に **115.4** 人



令和6年

転出

1日に **107.0** 人



令和6年

結婚

1日に **9.8** 組



令和6年

離婚

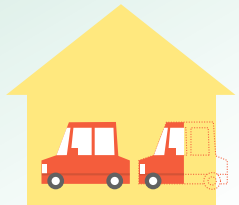
1日に **3.8** 組



令和6年

乗用自動車

1世帯に **1.2** 台



令和5年度末

交通事故

1日に **4.7** 件



令和5年

火災

1日に **0.5** 件



令和6年

救急車出動

1日に **121.2** 件



令和6年

犯罪

1日に **7.9** 件



令和5年

市職員

市民 **72** 人に **1** 人
(教員及び消防職員も含む)



令和6年4月1日

消防職員

市民 **914** 人に **1** 人



令和6年4月1日

水道使用量

1日1世帯あたり **220** リットル



令和5年度

ごみ収集量

1日に **684.0** トン



令和5年度

市税

市民1人あたり **173,214** 円



令和6年度

市の予算

市民1人あたり **568,509** 円



令和7年度当初予算額

9 日本一住みやすいまちを目指して(政令指定都市比較)

(km ²)		
順位	市域面積	
1	浜 松 市	1,558.11
2	静 岡 市	1,411.93
3	札 幌 市	1,121.26
4	広 島 市	906.69
5	京 都 市	827.83
6	岡 山 市	789.95
7	仙 台 市	786.35
8	新 潟 市	725.99
9	神 戸 市	556.93
10	北九州市	492.50
11	横 浜 市	438.23
12	熊 本 市	390.32
13	福 岡 市	343.47
14	相模原市	328.91
15	名古屋市	326.46
16	千 葉 市	271.76
17	大 阪 市	225.34
18	さいたま市	217.43
19	堺 市	149.83
20	川 崎 市	142.96
令和 7 年 1 月 1 日		

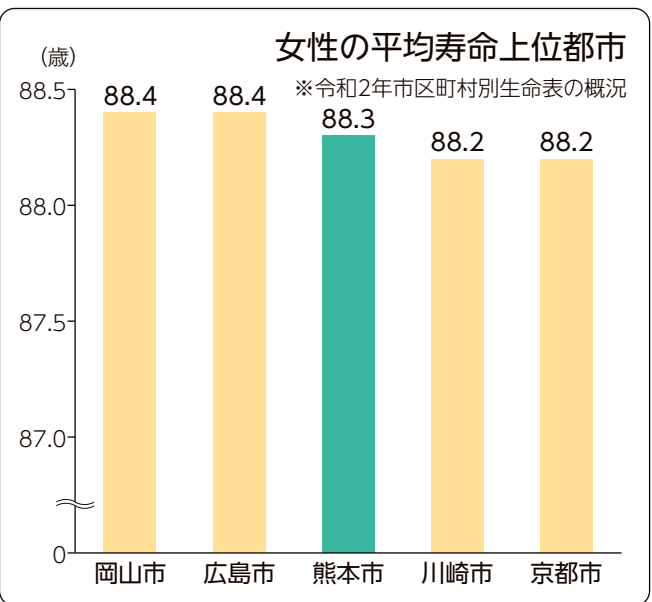
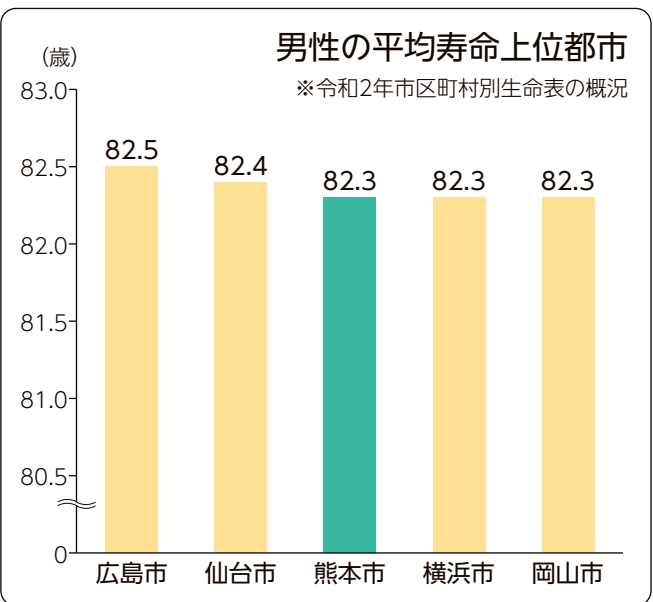
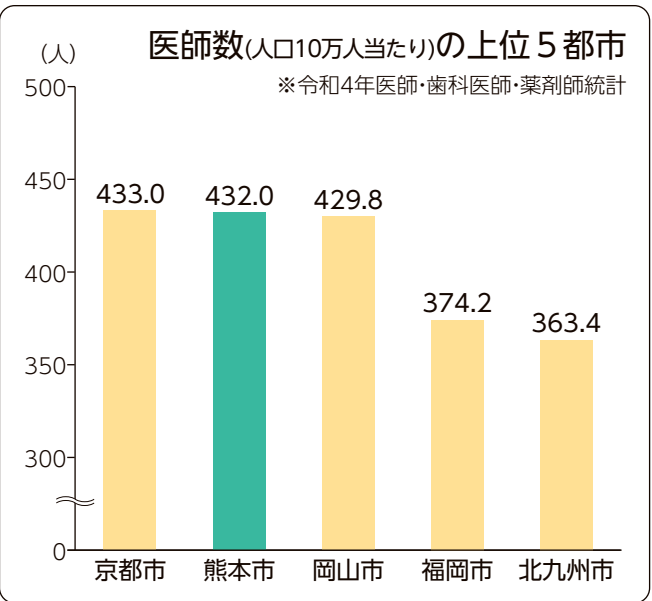
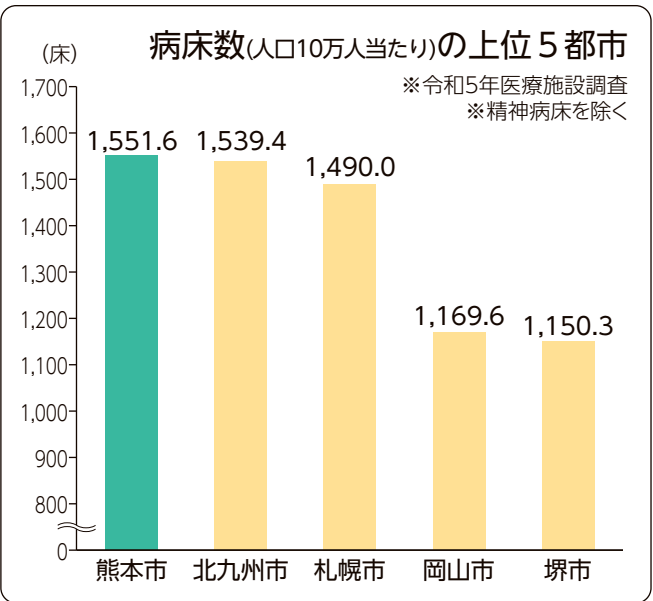
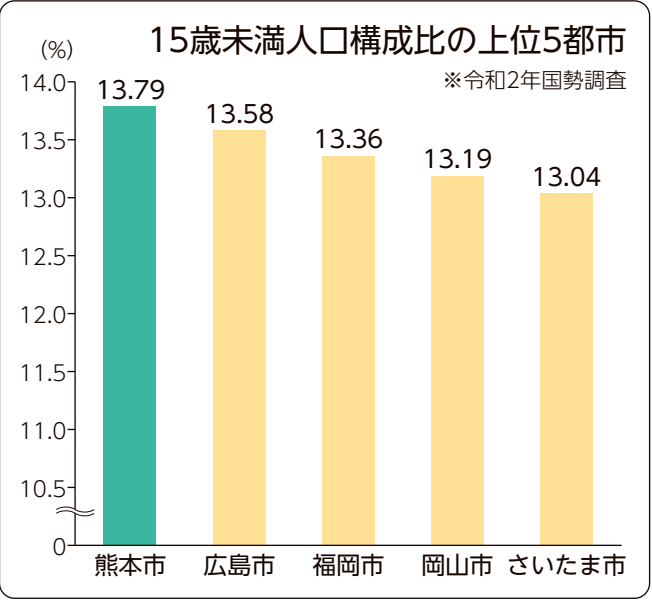
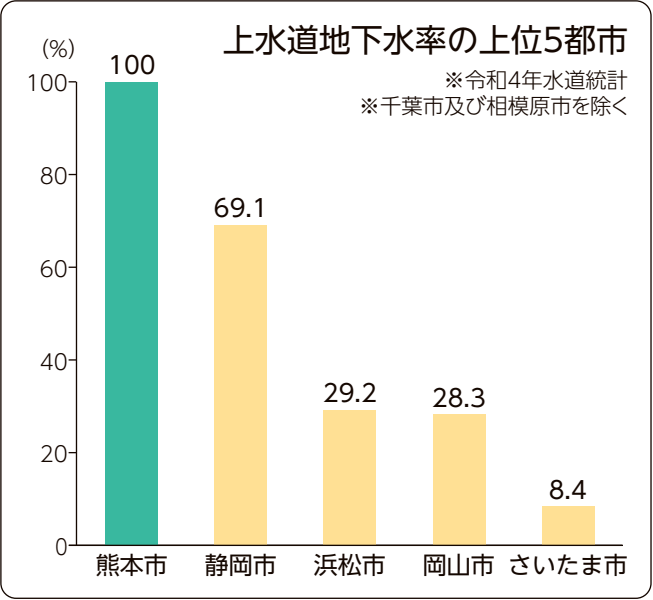
(所)		
順位	事業所数	
1	大 阪 市	177,184
2	名古屋市	117,344
3	横 浜 市	116,479
4	福 岡 市	74,867
5	札 幌 市	72,730
6	京 都 市	69,670
7	神 戸 市	62,228
8	広 島 市	52,401
9	仙 台 市	47,321
10	川 崎 市	41,223
11	さいたま市	40,233
12	北九州市	39,995
13	浜 松 市	33,755
14	静 岡 市	33,514
15	新 潟 市	32,995
16	岡 山 市	32,683
17	熊 本 市	30,344
18	千 葉 市	27,826
19	堺 市	27,315
20	相模原市	21,586
令和 3 年経済センサス-活動調査		

(世帯)		
順位	世 帯	
1	横 浜 市	1,827,978
2	大 阪 市	1,577,343
3	名古屋市	1,182,555
4	札 幌 市	1,007,309
5	福 岡 市	894,630
6	川 崎 市	790,411
7	京 都 市	752,238
8	神 戸 市	751,815
9	さいたま市	652,825
10	広 島 市	567,176
11	仙 台 市	551,449
12	千 葉 市	478,920
13	北九州市	438,266
14	堺 市	374,987
15	新 潟 市	351,362
16	相模原市	350,011
17	熊 本 市	343,638
18	浜 松 市	334,455
19	岡 山 市	329,341
20	静 岡 市	305,243
令和 7 年 4 月 1 日		

(人)		
順位	従業員数	
1	大 阪 市	2,308,581
2	横 浜 市	1,527,783
3	名古屋市	1,450,337
4	福 岡 市	923,521
5	札 幌 市	872,779
6	京 都 市	746,275
7	神 戸 市	725,828
8	広 島 市	593,108
9	仙 台 市	568,963
10	川 崎 市	547,471
11	さいたま市	517,261
12	北九州市	436,472
13	千 葉 市	411,172
14	浜 松 市	382,432
15	新 潟 市	363,605
16	岡 山 市	353,376
17	静 岡 市	346,576
18	熊 本 市	325,935
19	堺 市	320,831
20	相模原市	244,288
令和 3 年経済センサス-活動調査		

(人)		
順位	人 口	
1	横 浜 市	3,769,150
2	大 阪 市	2,800,023
3	名古屋市	2,329,646
4	札 幌 市	1,964,894
5	福 岡 市	1,660,254
6	川 崎 市	1,553,920
7	神 戸 市	1,486,033
8	京 都 市	1,430,552
9	さいたま市	1,351,872
10	広 島 市	1,175,770
11	仙 台 市	1,091,266
12	千 葉 市	985,335
13	北九州市	901,757
14	堺 市	804,163
15	浜 松 市	770,969
16	新 潟 市	761,588
17	熊 本 市	735,509
18	相模原市	722,148
19	岡 山 市	709,862
20	静 岡 市	668,452
令和 7 年 4 月 1 日		

(戸)		
順位	着工新設住宅戸数	
1	大 阪 市	29,012
2	横 浜 市	26,610
3	名古屋市	26,349
4	札 幌 市	15,516
5	福 岡 市	14,258
6	川 崎 市	11,611
7	さいたま市	11,049
8	仙 台 市	9,810
9	京 都 市	9,809
10	広 島 市	8,195
11	神 戸 市	7,803
12	千 葉 市	7,282
13	熊 本 市	5,840
13	北九州市	5,840
15	堺 市	5,667
16	相模原市	5,390
17	浜 松 市	5,232
18	岡 山 市	5,145
19	新 潟 市	4,049
20	静 岡 市	4,038
令和 5 年建築着工統計調査		



10 日本一住みやすいまちを目指して(九州山口各県庁所在地比較)

(km²)

順位	市域面積	
1	山 口 市	1,023.22
2	宮 崎 市	643.57
3	鹿児島市	547.61
4	大 分 市	502.39
5	佐 賀 市	431.81
6	長 崎 市	405.69
7	熊 本 市	390.32
8	福 岡 市	343.47
9	那 覇 市	41.46
令和 7 年 1 月 1 日		

(世帯)

順位	世 帯	
1	福 岡 市	894,630
2	熊 本 市	343,638
3	鹿児島市	285,750
4	大 分 市	217,763
5	宮 崎 市	188,379
6	長 崎 市	185,695
7	那 覇 市	150,040
8	佐 賀 市	99,926
9	山 口 市	88,543
令和 7 年 4 月 1 日		

(人)

順位	人 口	
1	福 岡 市	1,660,254
2	熊 本 市	735,509
3	鹿児島市	580,037
4	大 分 市	468,584
5	宮 崎 市	391,823
6	長 崎 市	385,105
7	那 覇 市	308,989
8	佐 賀 市	227,018
9	山 口 市	187,892
令和 7 年 4 月 1 日		

(所)

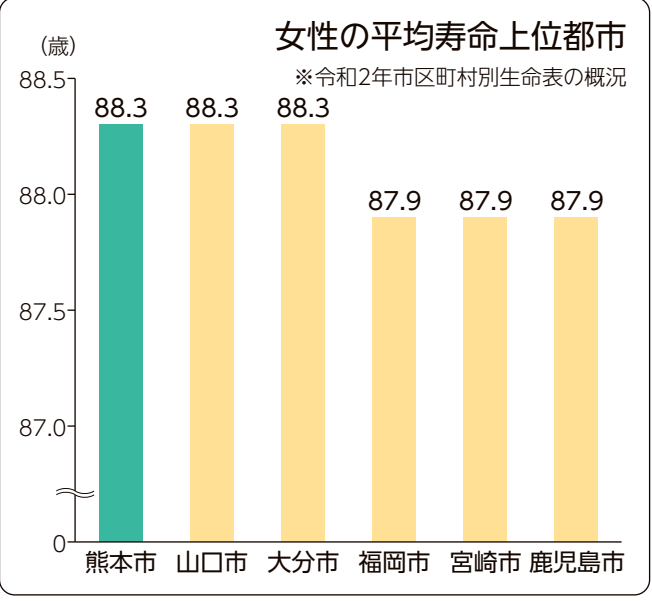
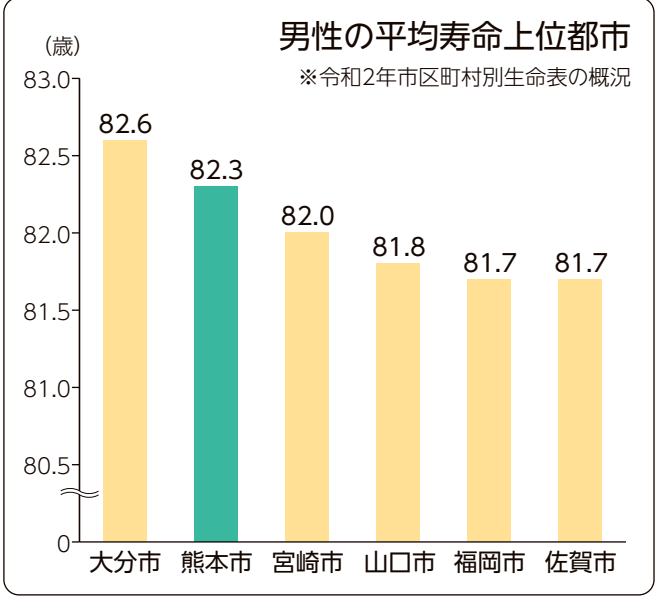
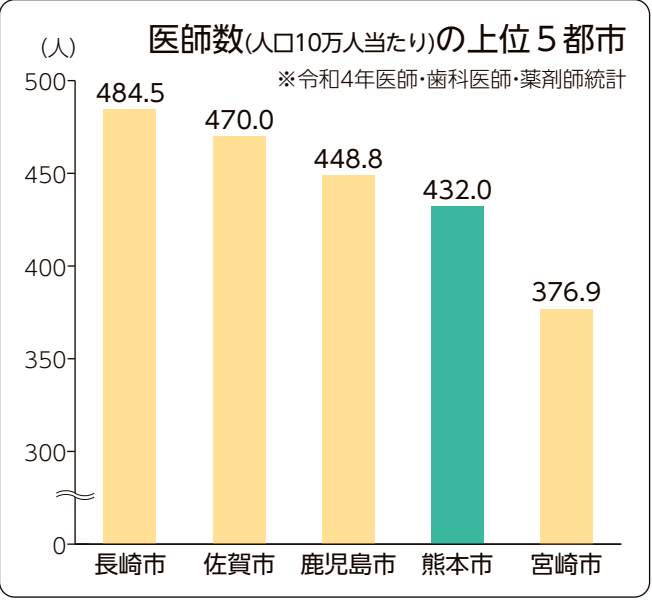
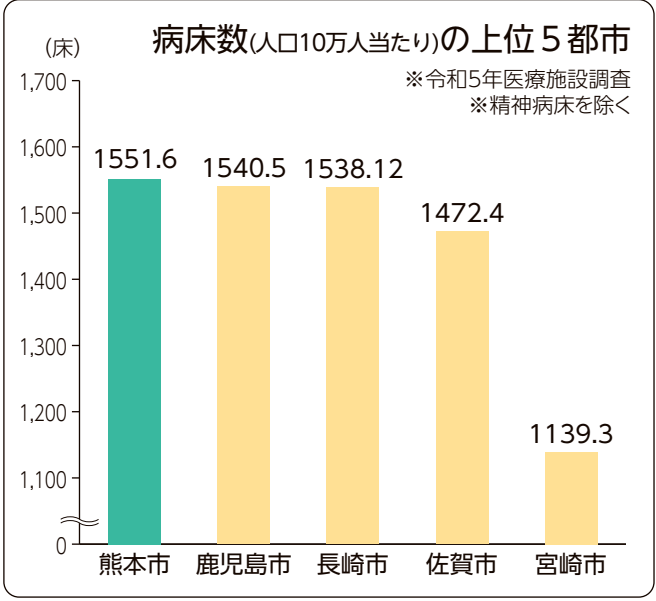
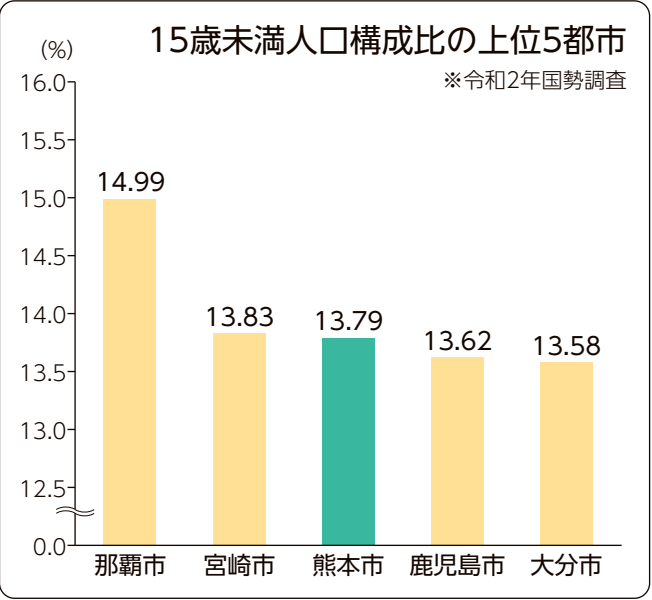
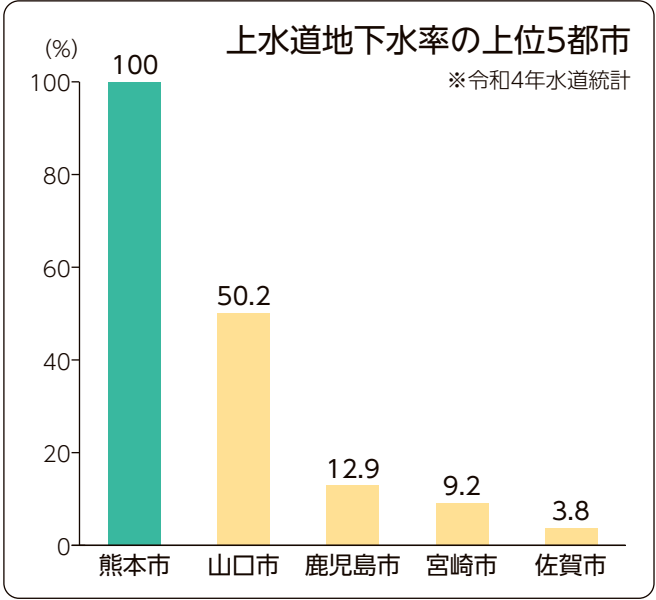
順位	事業所数	
1	福 岡 市	74,867
2	熊 本 市	30,344
3	鹿児島市	26,595
4	大 分 市	19,279
5	長 崎 市	17,693
6	宮 崎 市	17,594
7	那 覇 市	16,770
8	佐 賀 市	11,487
9	山 口 市	8,125
令和 3 年経済センサス-活動調査		

(人)

順位	従業員数	
1	福 岡 市	923,521
2	熊 本 市	325,935
3	鹿児島市	274,681
4	大 分 市	214,332
5	長 崎 市	180,782
6	宮 崎 市	177,165
7	那 覇 市	161,824
8	佐 賀 市	116,964
9	山 口 市	90,117
令和 3 年経済センサス-活動調査		

(戸)

順位	着工新設住宅戸数	
1	福 岡 市	14,258
2	熊 本 市	5,840
3	鹿児島市	4,114
4	大 分 市	3,585
5	宮 崎 市	2,409
6	長 崎 市	2,059
7	那 覇 市	2,049
8	佐 賀 市	1,647
9	山 口 市	1,000
令和 5 年建築着工統計調査		



11 主要観光地・施設等



中央区

中央区

- 1 熊本城
- 2 桜の馬場 城彩苑
- 3 熊本県立美術館(本館)
- 4 熊本県立美術館(分館)
- 5 熊本県伝統工芸館
- 6 熊本市現代美術館
- 7 熊本市熊本博物館
- 8 旧細川刑部邸
- 9 監物台樹木園
- 10 小泉八雲熊本旧居
- 11 夏目漱石内坪井旧居
- 12 夏目漱石北千反畑旧居
- 13 徳富記念園
- 14 五高記念館
- 15 リデル、ライト両女史記念館
- 16 立田自然公園
- 17 後藤是山記念館
- 18 水前寺成趣園
- 19 熊本洋学校教師ジェーンズ邸
- 20 夏目漱石大江山旧居
- 21 くまもと文学・歴史館
- 22 水前寺江津湖公園

北 区

- 23 北岡自然公園
- 24 武蔵塚公園
- 25 熊本国際民藝館
- 26 熊本市水の科学館
- 27 御馬下の角小屋
- 28 フードパル熊本
- 29 植木温泉
- 30 宮原温泉
- 31 種田山頭火・味取観音堂
- 32 熊本市田原坂西南戦争資料館
- 33 豊岡の眼鏡橋
- 34 小野泉水公園

西 区

- 35 本妙寺
- 36 お手水の森
- 37 島田美術館
- 38 釣耕園
- 39 叢桂園
- 40 霊巖洞・五百羅漢(雲巖禅寺)
- 41 峠の茶屋公園
- 42 金峰森の駅 みちくさ館
- 43 池辺寺跡

東 区

- 44 熊本市動植物園
- 45 横井小楠記念館
- 46 くまもと工芸会館
- 47 雁回山長寿寺 木原不動尊
- 48 六殿神社
- 49 雁回山自然公園
- 50 熊本市塚原歴史民俗資料館
- 51 塚原古墳公園

資料 市観光政策課

所在地

- 本丸
二の丸
二の丸
千葉城町
千葉城町
上通町
古京町
古京町
二の丸
安政町
内坪井町
北千反畑町
大江4丁目
黒髪2丁目
黒髪5丁目
黒髪4丁目
水前寺2丁目
水前寺公園
水前寺公園
水前寺公園
出水2丁目
出水2丁目
神水本町他
横手2丁目

龍田弓削1丁目
龍田1丁目
八景水谷1丁目
四方奇町
貢町
植木町米塚
植木町宮原
植木町味取
植木町豊岡
植木町豊岡
植木町小野

花園4丁目
花園7丁目
島崎4丁目
島崎5丁目
島崎4丁目
松尾町平山
河内町岳
河内町岳
池上町

健軍5丁目
沼山津1丁目

川尻1丁目
富合町木原
富合町木原
富合町木原
城南町塚原
城南町塚原

北 区



20 熊本市水の科学館



27 御馬下の角小屋



28 フードパル熊本



29 植木温泉



32 熊本市田原坂西南戦争資料館



32 熊本市田原坂西南戦争資料館



35 本妙寺



37 島田美術館



40 霊巖洞・五百羅漢(雲巖禅寺)



41 峠の茶屋公園



44 熊本市動植物園



45 横井小楠記念館



47 雁回山長寿寺 木原不動尊



48 六殿神社



50 熊本市塚原歴史民俗資料館



51 塚原古墳公園



50 熊本市塚原歴史民俗資料館



51 塚原古墳公園

12 熊本市のあゆみ

西暦	和暦	熊本市の動き	世の中の動き
1870	明治3年	細川護久熊本藩知事となる 古城に医学校開校	
1871	4年	廃藩置県により熊本藩は熊本県となる 鎮西鎮台(九州及び中国西部を管轄)が設置 熊本洋学校開校	太陽暦を採用
1872	5年	熊本県を白川県と改称 明治天皇の熊本行幸	
1877	10年	西南戦争 (市街地の大半が兵火により焼失、熊本城天守閣炎上)	1876 白川県を熊本県と改称
1887	20年	第五高等中学校(九州に1校)の設置	東京電灯会社初めて点灯
1888	21年	熊本鎮台 第六師団と改称	
1889	22年	市町村制が施行され熊本市誕生 第一回熊本市会議員選挙 現在の白川公園前に市役所開庁 明治熊本地震発生	大日本帝国憲法の公布
1891	24年	高瀬・熊本市春日間の九州鉄道が開通 熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がとめる ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)第五高等中学校に着任	大津事件
1892	25年	塘林虎五郎が貧児寮(大江学園)を設立	
1893	26年	内村鑑三、熊本英学校教師として着任	
1894	27年	第五高等中学校は第五高等学校と改称	日清戦争始まる
1895	28年	ハンナ・リデル女史が回春病院設立	
1896	29年	夏目漱石が第五高等学校に着任	
1898	31年	ジョン・メリー・コール神父がらい救済の待労院設立 市立熊本伝染病院落成	
1900	33年	白川大水害、明午・安巳・長六橋流失	治安警察法公布
1901	34年	熊本電話交換局船場町に開設 電話交換業務開始 第1回熊本市統計書を発行	
1906	39年	第五高等学校工学部が独立し、熊本高等工業学校と改称	1904 日露戦争始まる
1907	40年	安巳橋・水前寺間に軽便鉄道開業	
1909	42年	九州縦貫の幹線鉄道(鹿児島線、門司・鹿児島間)実現	
1911	44年	市立実科高等女学校開校 菊池軌道株式会社が上熊本・広町間開業	
1912	元年	熊本軌道が檜崎・百貫石間開通	1912 スtockホルム五輪に日本初参加
1913	2年	熊本市初の工業統計調査を実施 肥後相撲館開館	
1920	9年	第1回国勢調査 市人口70,338人、戸数13,817戸	1914 第一次世界大戦
1921	10年	大熊本市誕生(11カ町村合併:黒髪・池田・花園・島崎・横手・春日・古町・本荘・春竹・大江・本山)	1918 スペイン風邪が流行
1922	11年	市立実科高等女学校が市立高等学校と改称	国際連盟発足

西暦	和暦	熊本市の動き	世の中の動き
1923	12年	手取本町に市役所新庁舎落成	関東大震災
1924	13年	市営電車開通(開通に伴い大甲橋を架設) 市上水道通水開始 歩兵第二十三連隊の留守隊、渡鹿に移転	
1925	14年	市三大事業記念国産共進会開催(入場者133万人) 飽託郡出水村が市と合併	
1927	昭和2年	長六橋開通 市営乗合自動車(市営バス)が7台で営業を開始	国有鉄道鹿児島本線全通
1928	3年	熊本放送局JOGK開局(ラジオ初放送) 水前寺公設グラウンド開場(陸上競技場・野球場)	
1929	4年	熊本動物園が水前寺公園内に開園	世界恐慌始まる
1930	5年	熊本市歌を制定 花畑町に市勸業館が落成、開館 市公会堂新館が落成	
1931	6年	白坪村を市に編入	満州事変始まる
1932	7年	飽託郡画図村が市と合併、画図町となる	
1933	8年	熊本城宇土櫓国宝に指定	日本、国際連盟脱退
1935	10年	新興熊本大博覧会を開催	
1936	11年	飽託郡健軍村が市と合併	1937 ヘレン・ケラー来熊 1937 日中戦争始まる
1939	14年	飽託郡清水村が市と合併	
1940	15年	飽託郡川尻町、日吉村、力合村を市に編入	1941 太平洋戦争始まる
1942	17年	九州日日新聞と九州新聞が統合され熊本日日新聞発足 健軍町に三菱重工業株式会社熊本航空機製作所設立	
1944	19年	市電気局が市交通局と改称	太平洋戦争終結
1945	20年	アメリカ軍が熊本市を空襲(中心市街地の大半が焼失)	日本国憲法公布
1946	21年	市立民生病院発足	1947 地方自治法公布 婦人に初の参政権 大韓民国誕生
1948	23年	市消防本部設置 市立母子寮を設置 熊本中央児童相談所が古城町に設置 市立高等女学校が市立女子高等学校と改称	
1949	24年	市立女子高等学校が市立高等学校と改称 「火の国まつり」開始 市立実務員養成所が西山中学校内に開校 市立熊本保健所を上林に新設 市立民生病院は市立熊本市民病院となる	
1952	27年	市立博物館開館	1950 朝鮮戦争起こる
1953	28年	飽託郡田迎村、御幸村を市に編入 6.26大水害発生 白川の氾濫で熊本市中心に大被害 飽託郡池上村、高橋村、城山村を市に編入 熊本初の民間放送 ラジオ熊本開局 市立図書館が発足	1951 サンフランシスコ講和条約調印 NHKテレビ放送開始



旧市役所庁舎



長六橋



熊本動物園



市勸業館



市消防本部



熊本博物館(第1館)



6.26 熊本大水害

西暦	和暦	熊本市の動き	世の中の動き
1954	29年	上益城郡秋津村を市に編入 市電開通30年記念「熊本交通観光大博覧会」開催	
1955	30年	飽託郡松尾村を市に編入	
1956	31年	託麻村の保田窪、新南部と合併	日ソ国交回復
1957	32年	市立高等学校に商業科を併設 飽託郡小島町、龍田村を市に編入 7.26大水害発生 井芹川・坪井川氾濫 金峰山周辺で山津波	5000円札、100円硬貨の発行 東京都市圏人口が世界一に
1958	33年	飽託郡中島村を市に編入 小島下町、沖新地先と合併	1万円札発行、国民皆保険と拠出制国民年金が発足 阿蘇山噴火
1959	34年	市立高等学校商業科が分離独立し、市立商業高等学校となる 市立実務員養成所が市立実務商業学校と改称	
1960	35年	健軍町に熊本空港開港 「愛市憲章」を制定 熊本城天守閣再建、落成 第15回国体夏季大会を開催	NHKカラーテレビ放送熊本で開始
1962	37年	天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会くまもと博」開催	
1964	39年	市第一次総合計画策定	東京オリンピック開催
1965	40年	市内の全小學校にプール完成	
1967	42年	県庁が桜町から水前寺に移転	
1968	43年	市民会館開館	
1969	44年	熊本交通センター開所 江津湖畔に水辺動物園が開園、熊本動物大博覧会を開催 「熊本市章」決まる	
1970	45年	飽託郡託麻村を市に編入	大阪で日本万国博覧会開催
1971	46年	勤労青少年ホームが新屋敷に落成 新熊本空港が高遊原に開港 九州縦貫自動車道(熊本－植木間)開通	
1972	47年	市議会が「森の都宣言」決議	沖縄返還協定調印 札幌で冬季オリンピック開催
1974	49年	市の木に「イチヨウ」、市の花に「肥後ツバキ」を制定	
1975	50年	金峰山少年自然の家が開所	
1976	51年	市議会が「地下水保全都市宣言」決議	
1977	52年	人口が50万人を突破	
1978	53年	新しい熊本博物館が開館	
1979	54年	新しい市民病院を開設 市立実務商業学校が市立実務商業専門学校と改称 市が「健康都市」宣言 中国・桂林市と友好都市提携締結	
1980	55年	水害で約16,900人の市民が罹災	
1981	56年	産業文化会館が開館 新市庁舎建設完成	
1982	57年	北部保健センター開所、横井小楠記念館開所、四時軒復元(横井小楠家塾) 市立図書館が完成	
1984	59年	市の鳥として「シジュウカラ」を制定	
1986	61年	総合体育館、青年会館開館	ソ連チェルノブイリ原子力発電所事故
1987	62年	米国・サンアントニオ市と姉妹都市提携締結	



熊本城



新市庁舎

西暦	和暦	熊本市の動き	世の中の動き
	平成		
1989	元年	市制施行100周年記念行事「熊本百彩」開催 流通情報会館開館	消費税制度スタート ベルリンの壁崩壊
1990	2年	「総合婦人会館・カルチャーセンター」開館 「水資源国際会議」を開催 「市民長寿社会憲章」を制定 「水の科学館」開館	
1991	3年	熊本市と飽託郡4町（北部・河内・飽田・天明）が合併 熊本市立実務商業専門学校が市立総合ビジネス専門学校と改称し、移転 南部総合スポーツセンター開館 水辺動物園と都市緑化植物園が一体化 動植物園として開園	台風19号による大災害
1992	4年	独国・ハイデルベルク市との友好都市締結	日本人初の宇宙飛行士、毛利 衛 アメリカ、スペースシャトル・エンデバーで宇宙へ
1993	5年	上級武家屋敷・旧細川刑部邸移築・復元 「火の国フェスタ・くまもと'93」が開幕 93ゆうあいピック熊本大会開催	
1994	6年	国際交流会館開館 「市民こども憲章」制定 福井市と姉妹都市締結	日本人宇宙飛行士、向井千秋 アメリカ、スペースシャトル・コロンビアで宇宙へ
1995	7年	子ども文化会館開館、健軍文化ホール開館 ローム市（アメリカ）と姉妹都市締結 環境総合センター完成 市が「平和都市」宣言（戦後50年） 市が「環境保全都市」宣言	阪神・淡路大震災
1996	8年	中核市に移行 熊本市優待証（さくらカード）運用開始 第1回くまもとお城まつり開幕	地下鉄猛毒サリンガス事件
1997	9年	97男子世界ハンドボール選手権大会開催 国内初の超低床電車運行開始	
1998	10年	熊本城復元基金制度が発足 市総合屋内プール「アクアドームくまもと」完成 「中核市サミット'98in 熊本」開催	長野オリンピック開催
1999	11年	市議会が「スポーツ都市宣言」決議 第54回国体「くまもと未来国体」開催 第35回全国身体障害者スポーツ大会「ハートフルくまもと大会」開催 第20回記念国際・全国マスターズ陸上競技選手権熊本県大会を開催	情報公開法成立
2000	12年	市立商業高等学校が市立千原台高等学校と改称	
2001	13年	市立高等学校が市立必由館高等学校と改称 「ひのくに新世紀総体」開催	
2002	14年	市現代美術館開館 国際環境都市会議くまもと2002開催	アメリカ同時多発テロ事件
2003	15年	託麻スポーツセンター体育館開館 市議会が「観光立市くまもと」都市宣言決議 アジア太平洋都市サミット第5回実務者会議開催	イラク戦争勃発 個人情報保護法成立



市制100周年



飽託4町合併



熊本市動植物園



熊本国体

西暦	和暦	熊本市の動き
2004	16年	市政情報プラザ開設 個人情報の保護に関する条例施行
2006	18年	「熊本都市圏及び政令指定都市についての研究会」設置 世界女性スポーツ会議くまもと開催 熊本オフィシャルウォーター「熊本水物語」を発表
2007	19年	熊本城築城400年 熊本市中心市街地活性化基本計画認定
2008	20年	「ウェルパルクまもと」開館 熊本城本丸御殿復元完了 日本水大賞グランプリを受賞 熊本市と富合町が合併
2009	21年	熊本城復元募金新「一口城主制度」が始まる 家庭ごみの有料化開始 「わくわく都市くまもと」宣言
2010	22年	熊本市と城南町、植木町が合併 大韓民国蔚山広域市友好協力都市協定締結
2011	23年	九州新幹線全線開業 「桜の馬場城彩苑」開館 「くまもと森都心プラザ」開館
2012	24年	熊本上海事務所開設 第1回熊本城マラソン開催 政令指定都市となる
2013	25年	仏・エクスプロヴァンス市交流都市協定締結 国連“生命の水”(Water for life)最優秀賞受賞 中国・蘇州国家高新区交流都市協定締結 台湾・高雄市国際交流促進覚書締結 アジア太平洋都市サミット開催 全国豊かな海づくり大会開催
2014	26年	新型超低床市電(COCORO)の運行開始
2015	27年	熊本市営バス運行終了 海フェスタくまもと開催
2016	28年	近隣市町村と「熊本連携中枢都市圏構想」を進めていくための連携協約を締結 熊本地震 発生
2018	30年	大規模改装のため長期休館していた市立熊本博物館が再開
2019	令和元年	熊本市民病院の建て替え完了 熊本城ホール完成
2020	2年	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの中止や、市有施設が利用休止となる
2021	3年	熊本城天守閣の完全復旧
2022	4年	くまもと花博開催 第4回アジア・太平洋水サミット開催
2023	5年	熊本洋学校教師ジェーンズ邸の移築・再建完了

世の中の動き
2005 尼崎市で JR 福知山線脱線事故
裁判員制度始まる
九州南部で口蹄疫の感染広がる
東日本大震災、福島第一原子力発電所事故
九州北部豪雨
マイナンバー制度 運用開始 改正公職選挙法が施行 選挙権年齢が 18 歳以上に
ラグビーワールドカップ 2019 開催 2019 女子ハンドボール世界選手権大会 開催
新型コロナウイルス感染症が世界中で流行 令和 2 年 7 月豪雨 発生 国勢調査実施 100 年目 東京オリンピック開催



九州新幹線全線開業



政令指定都市移行記念式典



第1回熊本城マラソン開催



第33回全国豊かな海づくり大会



新型超低床市電(COCORO)の運行開始

名誉市民



明治一昭和期の新聞人・歴史家。熊本洋学校・同志社に学び上京、帰郷して自由民権運動に参加し、大江義塾を開設。明治20年(1887年)民友社を設立し、「国民之友」を発行。明治23年(1890年)「国民新聞」を発行。「近世日本国民史」100巻を完結。生涯300冊の著作を残した。文久3年1月25日(1863年3月14日)生まれ、昭和32年(1957年)11月2日逝去、94歳。



第7代熊本市長として、歩兵第23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽くした。また、教育者として東洋語学専門学校校長、熊本商科大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年(1883年)1月1日生まれ、昭和32年(1957年)5月6日逝去、74歳。



旧肥後藩主細川家16代当主。有斐学舎舎長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身者の育成援護に尽くした。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献した。明治16年(1883年)10月21日生まれ、昭和45年(1970年)11月18日逝去、87歳。



医師、教育者、社会事業家。熊本英学校で海老名弾正らに学び受洗。エジンバラ大医学部卒。産婦人科病院開業の傍ら無料診療所紫苑会治療所を創立。県医師会長、公選の県教育委員長、大江高校校長、県社会福祉協議会会長、熊本YMCA理事長、県原水禁理事長など歴任。キリスト教信仰に基づく生涯を貫いた。明治5年(1872年)12月7日生まれ、昭和48年(1973年)8月7日逝去、100歳。



漢学者。東京大学名誉教授。東方文化学院院長、実践女子大学学長、東方学会会長を歴任。清国(中国)に留学して支那学を、ドイツで西洋哲学を学んだ。西洋哲学の方法を用いた中国哲学の叙述は一世を風靡した。明治8年(1875年)11月15日生まれ、昭和49年(1974年)2月19日逝去、98歳。



日本画家。明治42年(1909年)、22歳のとき上京。大正2年(1913年)第7回文展に「霜月頃」が初入賞。その後、横山大観に師事した。昭和13年(1938年)、文展審査員。戦後は文化勲章受章など日本画壇の重鎮となる。代表作に日光輪王寺薬師堂天井画「鳴竜図」、熊本市市民会館観覧「火の国讃舞」などがある。明治20年(1887年)9月12日生まれ、昭和55年(1980年)12月30日逝去、93歳。



新聞人、俳人。九州日日新聞社入社後、国民新聞社に留学、徳富蘇峰の薫陶を受けた。帰熊後九州日日新聞社の主筆、編集長として熊本の文化振興に貢献。昭和2年(1927年)、俳誌「かはがらし」(のち「東火」)を創刊主宰した。著書に「肥後の勤皇」、編書に「肥後国誌」がある。明治19年(1886年)6月8日生まれ、昭和61年(1986年)6月4日逝去、99歳。



高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした“汀女俳句”は、句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献した。「ホトトギス」同人、「風花」を創刊主宰した。明治33年(1900年)4月11日生まれ、昭和63年(1988年)9月20日逝去、88歳。

※旧城南町及び植木町の名誉町民は、熊本市の名誉市民として継承されていきます。

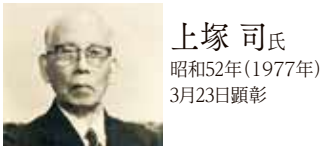


宮中歌会始詠進歌選者を務めるなど日本を代表する女流歌人。平成3年(1991年)には歌壇の最高賞である迺空賞を受賞。また、書家としても顕著な功績を収める。熊本県教育委員会委員長、熊本県文化協会会長などの要職を歴任、本市の教育・文化の発展に多大な功績。勲四等瑞宝章受章。くまもと県民文化賞受賞。熊本県近代文化功労者。大正9年(1920年)2月19日生まれ、平成24年(2012年)3月17日逝去、92歳。

旧城南町



「ブラジル移民の父」と呼ばれ、明治41年(1908年)に第1回移民船「笠戸丸」の監督としてブラジルに渡り、ブラジルにおける日系社会の確固たる基盤を築いた。また、その功績から、ブラジルのサンパウロ州には氏の名前を付けられた道路や公園、橋があるほか、遺徳を称える記念碑なども残されている。明治9年(1876年)7月12日生まれ、昭和10年(1935年)7月6日逝去、58歳。



大蔵大臣秘書官、大蔵政務次官、農商務大臣、商工大臣などの要職を務め、この間、アマゾン開発に全力を傾け、ブラジル移民の道を開いた。その後、日伯中央協会の理事や名誉顧問を歴任。ブラジル大統領から最高勲章を授与されるなど、日伯国交樹立等に対する功績が高く評価されている。明治23年(1890年)5月1日生まれ、昭和53年(1978年)10月22日逝去、88歳。



台湾の台南州内務部長、澎湖庁長、新竹州知事を務めた後、衆議院議員、第16代熊本市長を経て参議院議員となり、北海道開発政務次官、地方行政委員長等を歴任。その業績は高く評価されている。明治25年(1892年)8月3日生まれ、昭和54年(1979年)12月14日逝去、87歳。



熊本県医師会副会長、下益城郡医師会長などを歴任し、健康保険の普及等に尽力した後、旧城南町の初代町長に就任。若くから人類学、考古学に関心があり、生涯をかけて研究された資料は「小林コレクション」と呼ばれ、約2万点の遺物が塚原歴史民俗資料館に寄贈されており、国指定重要文化財の「台付舟形土器」など、一部は現在も展示されている。明治28年(1895年)6月4日生まれ、昭和36年(1961年)8月26日逝去、66歳。



衆議院議員として建設政務次官や衆議院建設常任委員会委員長などの要職を歴任。平成3年(1991年)には国土庁長官に就任した。この間、国や熊本県、旧城南町の発展のために活躍し、数々の功績を残している。昭和2年(1927年)10月1日生まれ、平成18年(2006年)1月26日逝去、78歳。

旧植木町



県議会議員を経て、旧植木町初代町長(通算4期)。旧町の産業・経済発展の礎を築いた。開田事業による農業の構造改革及び企業誘致により地域の発展に貢献した。また、西南の役田原坂を公園化し、戦跡の保存・観光振興に努めた。明治30年(1897年)10月20日生まれ、昭和53年(1978年)1月2日逝去、80歳。



旧植木町教育長。徹底した住民対話型の公民館活動により地域社会の近代化に貢献した。第4代植木町長として住民福祉の向上に努める一方、文芸作家として生涯にわたる執筆活動、郷土史研究により、郷土の文化振興に貢献した。明治38年(1905年)1月21日生まれ、平成6年(1994年)3月21日逝去、89歳。



熊本市
市勢要覧
2025

City of Kumamoto

令和7年(2025年)8月発行
発行人／熊本市政策局総合政策部データ戦略課
〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号
TEL 096-328-2380



熊本市章

ひらがなの「く」の字を図案化したもので、市民の調和を基とし、たくましく発展する熊本市の姿を太い円で示したものです。
(昭和44年(1969年)8月1日制定)

Kumamoto City Song

熊本市歌

作詞／東岡 正治 作曲／鳥飼 哲夫 編曲／坂本英二
(昭和5年(1930年)3月制定)

- 一、 霊峰阿蘇を遥かに望み 水白川の流に沿いて
天下に名だたる古城の都 われらの都 大熊本市
- 二、 常磐の緑いらかを包み 森の都と世に謳われて
文運さかゆる平和の都 われらの都 大熊本市
- 三、 商工立市の営みしげく いま新興の光に満ちて
生氣ぞあふるる文化の都 われらの都 大熊本市
- 四、 輝く進取の旗ひるがえし 西日本の最中に立ちて
いざいざ築かむ理想の都 われらの都 大熊本市



市の木
イチヨウ

(イチヨウ科)

熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しさでよく知られている。

(昭和49年(1974年)10月9日制定)



市の花
肥後椿

(ツバキ科)

江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好家によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花卉が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。(昭和49年(1974年)10月9日制定)



市の鳥
シジュウカラ

全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。

(昭和59年(1984年)5月22日制定)